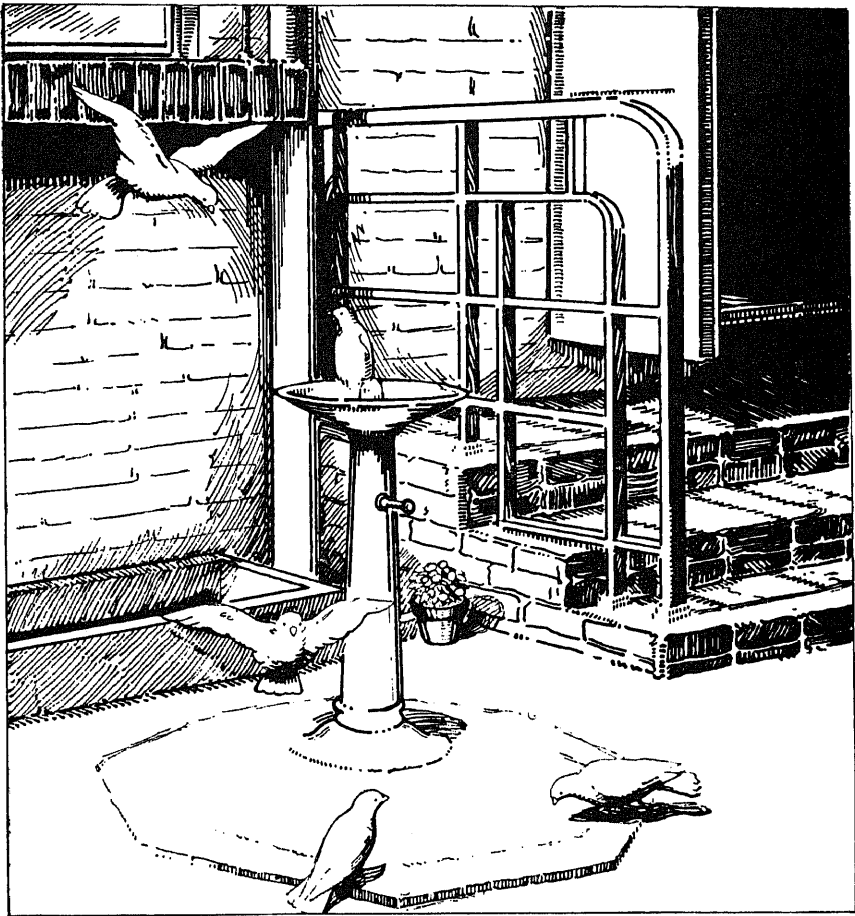


育教の兒幼

號 三 第 號 月 三 卷五十三第



內校學範師等高子女京東

會協園稚幼本日

第三
行
進
遊
戲

文檢受験者
唯一無二の
必讀要書!!

[illegible]

東京高等商業學校校長松本武夫著
第三卷
於ける新技術
定價二圓五十錢送廿二錢

番七二四八三京東替振店書館文中區込牛市京東所行發
番五三三三込牛話電

生徒募集

募集人員 百名

出願期限

自二月一日
至三月末日

無試験檢定ノ特典アリ

規則書ハ二錢切手封入申込マレタシ

東京市杉並區高圓寺三丁目二九八聖心學園内
西武電車及青バス妙法寺口下車(電話中野二四八四)

東京保姆專修學校

校長 ジー・マイエ

生徒募集

本科生

五十名

晝間の授業です

聴講生

十名

夜學ではありません

出願期日

三月末日限り

規則請求

二錢切手封入して御請求下さい

東京目白保姆學校

校長

和田

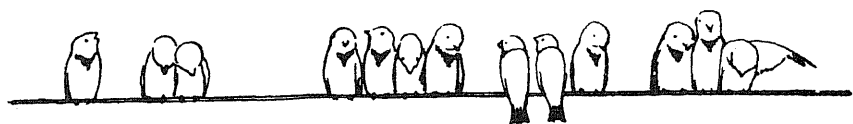
實

位置

淀橋區下落合三丁目一、三八八

(目白驛下車西方ニ約五丁)

電話 落合長崎五五九番



第 三 號 幼 兒 教 育 第 三 十 五 卷

— (次 目) —

口 繪

卷 頭 (春風 春雨)

倉 橋 惣 三 (一)

情 操 陶 治 と 學 習 と の 關 係

森 川 正 雄 (二)

小 學 校 入 學 檢 定 を 終 へ て (二)

堀 七 藏 (五)

遺 傳 と 環 境

霜 田 靜 志 (一〇)

童 話 は 何 處 に あ る か

石 井 庄 司 (九)

幼 稚 園 の 圖 畫 及 手 工 に 就 て (三)

伊 藤 堅 逸 (一五)

ブ ナ ホ の 幼 稚 園

蠟 山 銀 子 (四)

衛 生 上 よ り 見 た る 幼 稚 園 の 效 果

岡 田 道 一 (四)

兒 童 心 理 學 文 獻 抄 (五)

牛 島 義 友 (五)

幼 稚 園 兒 の 健 康 教 育

野 津 謙 (五)

大 型 の 動 物 製 作

村 上 露 子 (六)

「父 子」の 映 畫

奥 平 英 雄 (五)

童 話 何 故 さ う 物 語 (一)

中 野 好 夫 (五)

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編 (新刊)

本邦音樂教育史

菊版上製、箱入全一冊、定價 參 圓、送料拾六錢

我國に於ける音樂教育の發達は紆餘曲折幾多の變遷を重ね、多くの先輩は克く今日の隆盛を建設した。本書は此の史實を正して辿り、發展の經路を確かに究め正しき音樂教育發達史を詳述す。書中世に現はれざる貴重なる資料挿畫を以つてし興味又駭々たり。

東京音樂學校講師 草川宣雄先生著 (新刊)

最新音樂教育學

菊版上製、箱入全一冊、定價參圓八拾錢、送料拾八錢

本書は先生學生の大著述にして、音樂教育學の權威、書中先人未踏の教授論、方法論は教育音樂關係諸氏の指針たるべく、又蘊奥を究めしむるであらう。新界の研究者、文檢志願者の好伴侶燈明臺と信する。

新尋常小學唱歌文部省檢定濟全六冊 定價各冊 拾二錢

新高等小學唱歌文部省檢定濟全二冊 定價各冊 拾五錢

新尋常小學唱歌伴奏及解說全六冊 定價各六拾錢 送料六錢

新高等小學唱歌伴奏及解說全二冊 定價各九拾錢 送料八錢

兒童歌 新編集全六冊 定價各拾六錢

子供の舞踊卷一・二 低學年用 定價各金六〇錢 卷三・四 高學年用 定價各金 六一錢 送料各金 六錢

武藏野音樂學校長 福井直秋著 兒童唱歌七十一曲集 定價 金壹圓廿錢 送料 八錢

小學の教材の撰擇に就て 定價 金四拾五錢 送料 四錢

林松木先生著 教授法附 初等合唱曲 四六倍 上下各金八十錢 取扱方附 上製 送料金八錢 時代的要求に鑑み、現今小學校に於て愛唱されつゝある歌曲を編曲し初等教育音樂に寄與せんとす。合唱曲少き折柄貴重なる資料と信する。廣く御試唱を乞ふ。

東京市神田區 錦町三ノ十一 音樂教育書出版協會

振替東京六四七七〇番 電話神田(25)八三三番



等 予 る 語 と 雛

幼 兒 の 教 育

昭 和 十 三 年 三 月

春風 春雨

春風が吹くこともなく吹く。春雨が降ることもなく降る。

強い雨では洗ひ流されて仕舞ふ浅い芽である。荒い風では吹き散らされる小さい蕾である。

しかも、春風、春雨の心は、たゞに弱さに對するいたわりに止まらない。況して、そつと觸れ、そつとぬらして去る控へ目の淡さだけではない。斯くしてこそ、芽を自らに伸びさせることが出来る。蕾を自らに開かせることが出来るこいふ強い所信のみに、専ら生長のおのづからを助けようとしてゐるのである。

さればこそ、降ることもなしに降りながら、そのうるほひの豊に、深かくこゝろ細密なる。吹くこともなしに吹きながら、その暖かさの普くひろくこゝろ周到なる。

春風、春雨の弱さ、微けさのこゝろを見ても、そのなごやかさの裡に籠つてゐる強い濃い信念を感じ得ないものには、恐らくや、幼児の教育者の心は解せられない。

(倉橋惣三)

情操陶冶と學習との關係

森 川 正 雄

(一) 情緒、情操の意義

幼兒保育上最も困難な事柄の一は幼兒の情操陶冶のこゝである。羞恥、恐怖、憤怒、嫌忌、反抗、疳癩等々が起つた時、如何様に之を處置すべきか、父母教師の何時も困惑する所である。情操と言へば今日普通には情緒が一定の事物に對して屢々惹起され、その事物を見れば直に或情緒を起す様に習慣的に成つてゐる時、此の習慣的傾向を情操と言ふことにして居る。例へば母を慕ひ、教師を敬ひ、友を親しみ、敵を憎むが如き場合、それが習慣的であれば情操と言ふのである。情緒も情操も同一語を用ひてゐる場合が多いから、唯恐怖、憤怒、愛情、同情など言はれても、一時的なのが、習慣的なのが能く調べて見ねば分らぬ事が少くない。

(二) 世間一般に行はれてゐる方法

さてその情緒、情操の取扱について普通世間で如何なる態度を取つて居るかと言ふに、第一には禁止命令『泣いてはいけぬ、泣くな』、『蜻蛉の翅をむしつてはいかん、可愛相ではないか』。第二には説明『此の犬は噛み付きはしない、たゞ吠えるだけだ、逃げるに及ばぬ』。第三には模範『種痘など痛いこゝはない、そら此の通り、お母さんしますよ。さあ、此度は坊や』。第四には賞罰或はその豫告『髪を刈るたびに駄々を言ふなぞ、いけません、お父さんに言ひますよ』。『靜に

おしつて言つたら、濟んだらキャラメル買つて上げるよ。第五には轉向『おもちゃの奪ひ合ひはいけません、壊れますよ、こちらにおよこし、あ、あれ御覽、チンドンヤが通るわ』第六は根くらべ『まだ泣いて居るのか、幾らなぞ泣けく、目のつぶれるまで泣いて見ろ』等々、右のうちには有效なもの無効なもの、合理的なもの不合理なもの、合理的なものが混在してゐる。

(三) 改良意見

幼児の生活を見るに、その生活が平日と異なる事がなければ、所謂平穩無事であり、何も恐れも怒りもすることはない。併し、之に何か變つた事が起つて來るに、始めて恐怖だの憤怒だのが起つて來る。故に情緒は新事情に接した時に生起するものだ云ふ事がわかる。幼少な子供は経験に乏しいから、斯ういふ新事情に接した時、之に對應する經驗的方法を持合せて居ない。そこで専ら遺傳的方法によるの外ないのである。遺傳的方法と言へば即ち情緒もか本能もかに外ならぬ。例へば犬が來た、手か棒を振り上げるか、石を投げるかすれば犬はすぐ逃げ去るし、又知らぬ顔して通れば犬は何もしない事は經驗ある兒にはわかつて居る。それゆゑ犬を恐れることはない。併しさういふ事を知らぬ幼兒は遺傳的方法たる恐怖しい情緒も、逃走しい本能も起して此の新事情に對應するのである。尤も極幼少の兒は犬でも蛇でも毛蟲でも何でも恐れはしない。是は全く危險しい感じを未だ起さぬからである。盲目者蛇を恐れざるに同じである。

幼兒は少したつて新事物のうちには往々思ひもかけぬ苦痛あることを知つて、其後は新事情に對する毎に警戒心を生ずる様になる。事物に對する恐怖は此の段に起るのである(尤も或動物中には一定事物を、生れながら怖れるものもある)。幼稚園の幼兒が手技の時間なごに、色々やつて見ても、いつまでも自分だけ出來ぬを知つて泣き出す事がある。是も持合せの經驗的方法では間に合はぬから、泣くといふ遺傳的方法によつて教師の援助を求め、此の時間の新事情に對應するのである、大人の間にも同様の原理が行はれてゐる。親兄弟の臨終に當り、恢復に對する萬策盡きた時、皆が涕泣するのは即ち

それである。泣くまいふ事は經驗的方法の破産を意味してゐる。火事や地震まいふ様な變事に際して獨身の壯年者よりも幼兒を懷く婦人の方が恐れ騒ぐことの多いのも當然の理と言はねばならぬ。されば經驗的方法を多く獲得するほゞ遺傳的方法に訴へる事が少くなる譯である。經驗的方法の獲得は即ち學習の目的とする所である。前述の實例について言へば、犬については始に小犬に食を與へさせなごして親ませる、理髪には機嫌よき時を選び、又壓迫苦痛を與へぬ様にし、蜻蜒は之を籠に入れて觀察させ、その生活の様を談らせ或は畫かせなごして放ちやり、玩具は争はぬ物を選ぶか、幾つも用意しておくまいふ様にすれば、決して悪い情緒を固定させる事がなく、玩具や動物や友達に對して好愛の情をもたせ、且、良い態度を取らせる事が出来る。

以上は唯、一方面の記述に過ぎぬが、幼兒の生活は悉く嚴然たる理法によつて支配せられて居る事が知り得られる。我は幼兒を叱り又宥める際に先づ能く幼兒行動の意義を検討し、經驗的方法を獲得せしめる様に努力せねばならぬ。

小學校入學檢定を終へて (二)

附屬小學校主事

堀

七

藏

一

毎年の行事であるから入學檢定を終へても特別な所感がある譯ではない。しかし入學檢定に於て、いろいろの現象があり、それからいづく感想は幾分幼稚園保育の參考にもなるかと思へる。そこで編輯者の求に應じ、漫談的なるかも知れないが、入學檢定前後の所感を羅列する。尤も幼稚園保育の參考なららず、却て自己反省をしなければならぬ破目に陥るかも知れない。

二

本年の入學履歴書の受付は、一月九日午前九時よりいふこゝになつてゐた。當日私は授業の關係で、八時に出勤する。もう小學校の玄關受付の所に十人あまり列をなしてゐる。「氣の早い人も多いな、この寒いのにお氣の毒な」と、考へて主事室に入り、授業に必要な準備をなし、本校の方に行く積りで、小學校の玄關に出る。履歴書提出のために待合せてゐた中の二人が、大變に立腹してゐるらしい。「私達は寒いのにこゝに待つてゐる。それに後から來たものを廊下に入れる。いふ法があるか」といふ抗議である。する。廊下にある一人が「あまり寒いから私が小使さんにお願ひして廊下に入れて貰ひました」といふ辯明である。そこで私は「寒いでせうから到著順に廊下におならびになつた方がよいでせう。まだ一時間も受付開始まで時間がありますから」といつたが、それでも「此處に並び書き出してゐるではないか」となほぶつ／＼

憤慨してゐる者があつた。授業の時刻におくれるから、その儘にして本校の方に出掛けた。

授業を十分位早く切上げて、小學校に來て見るに、百人ばかりの人達が廊下に列をなしてゐる。そこで先頭の方に行き、

「先刻、順序で文句のあつた方は前の方にお出でなさい」といつたが、今度は皆頭を下げて居られる。私も不平者の詮議をする必要がないから、その儘にして置いたが、その中の一人（よく見れば附屬高等女學校專攻科の講師をしてゐたこのある方）が「一番に來た方からかはつて呉れよ、いはれましたから私がかかりました。私は急ぎますので一番に受付けて頂きます」といふことである。それは勝手に、私共には何等の關係のないことですから、「結構でせう」と、その儘にして置いた。

妙なもので永年間數十回の經驗によるに、抽籤で一番最初にひいた人で當り籤をひいた者がない。確率の問題を八ヶ間しく研究すればさうなるか、これは六ヶしい問題である。今年の入學志願者數、第一部が四百三十三人、第二部が三百七人、第三部が三百二十七人であつた。これは女兒だけであるが、この女兒について、第一部は一番より七十番までを入學候補者に定めて檢定をなすことになつてゐる。この第一部の抽籤に於て第一番に抽籤する人では幸運の確率が四百三十三分の七十である。しかし第二番に抽籤する人からは確率が變化する。若し第一番の抽籤者が當り籤を抽出して居れば第二番の者は幸運の確率が四百三十二分の六十九、若し第一番の抽籤者が當り籤を抽出して居ないときには第二番の幸運の確率が四百三十二分の七十で、第一の抽籤者よりも確率が大きい。第三、第四に抽籤する者の幸運の確率はいろいろに變化する譯で、必ずしも第一、第二の抽籤者よりも幸運の確率が小さい譯ではない。しかし普通に考へるに、早く抽籤する程、當り籤が多いからよい。即ち幸運の確率が大きい。七十番までの抽籤者が全部當り籤を抽出してしまへば、七十番目から抽籤する人々には幸運の確率が零であるに考へられ易い。それで寒いのに争つて、一の一番に受付票をとりたいといふ念願になる。

今年も午前六時頃から氣の早い人は、入學履歴書をもつて來たので、宿直の小使が困つたのである。ところが實際抽籤して見るに、受付番號一番から十三番までは、當り籤がない。十四番と十六番に當り籤があつて、二十三番までさぶ。それで受付番號百番までに當り籤が十二、受付番號二百番までには十六、受付番號三百番までに十八、受付番號四百番までに十五、受付番號四百一番より四百三十三番までに七である。だがまた二つあこに残つたことになる。それで當り籤は六十八抽出され是を見て先を争つて朝早くから押かけなくともよい。また第二部の方では、當り籤が受付番號四番に一つ現はれたのであるが、三十五番まではズット現はれてゐない。そして百番までに十六、二百番までに十、驚くべきことには百四十七番から二百三十七番まで一つも當り籤が出てゐない。そして三百番までに十一、三百十七番までに三つ現はれてゐる。

そして十の當り籤が残つた。第三部では、受付番號五番に當り籤が出て、百番までに十一、二百番までに十四、三百番までに二十二、三百二十七番までに三つ出てゐる。従つて第二部では残つた中に當り籤が十、第三部では十ある譯で、最後に抽籤しても幸運の確率が十分にある譯である。要するに急いで履歴書を差出さねばならぬ譯でもなく、またおそくなつたから悲觀することも不要である。

三

抽籤によつて入學候補者を定める。第一部では二十人の入學者に對しては一番から七十番までの抽籤番號に當つたものを入學候補者として檢し、第二部では十二名の入學者に對し、一番から五十番まで、第三部では入學者十五人に對し、一番から七十番までを入學候補者として檢定することにした。しかし實際には第一部でも抽籤に缺席した爲め無効になつたものが二人あり、第二部では第一部の抽籤に當つた爲めに第二部が無効になつたものが多く、第三部また同様である。第

一部も第二部も當り籤、また第一部と第三部、第二部と第三部とが當り籤といふ工合に重複したものであることを豫想して、第二部では五十番まで、第三部では七十番までとみなした譯である。實際に於て第一部は六十八人、第二部では三十人、第三部では五十三人検定することになった。尤もこの外に第二部第三部に對し附屬幼稚園第二部よりの者十六人が検定を受ける譯である。故に女兒の検定を受けるものは百六十八人である。一體小學校の入學検定をなすには、第一に、入學志願者全體を検定して入學者を決定するか、また第二に入學志願者全體につき検定して入學候補者を決定し、それにつき抽籤によつて入學者を決定するか、第三に志願者全體を抽籤によつて入學候補者を定めそれを検定するか三法ある。第一の法によると、志願者全體につき検定を行つて入學者を決定するのであるから、優秀兒童を選択して入學させるには最もよい。しかし二十人の入學者に對し、四百三十三人の志願者ある場合に於て、この法を適用することは頗る困難である。四百三十三人を検定するには少くとも四日を要する。四日間同一の検定問題を以て口頭で試問すると、そこに不公平が起る。第一日の模様を保姆や父兄の人々が幼兒から聽いて、その次の日には、それで準備をして來るといふやうな現象が起ることを豫想せねばならぬ。さりとて毎日問題を異にするときは、第一日の成績と第二日の成績を比較するに多少の不都合がある。しかも滿六歳になるか、ならぬの幼兒四百三十人に嚴密な検定をなすことが頗る困難である事も否定出來ない。第二法に於ても全體を検定して入學候補者を定め、それから抽籤で入學者を決定するのであるが、全體を検定する長所と短所とは略々第一法と同様である。唯検定して置いて、検定だけで決定出來ぬから抽籤を適用するだけである。

そして第一法でも第二法でも入學検定で駄目になつたといふことは、親の方では心外であるといふ感じも起る。折角検定で合格してゐて抽籤で落されたといふのも残念であるといふ小言も出る。それで第一法も第二法も勞多くして左程の效がない。寧ろ第三法の抽籤によつて入學候補者を定め、後検定によつて入學者を決定する方がよい。この方針が當附屬小

學校で、三十年來より來つた入學檢定の方法である。尤もこの法に對し、次の如き非難をする人がある。

(1) 四百三十人もの志願者があるのに、抽籤で省けばよい兒童が得られないといふこと。これは止むを得ないことで、多くの兒童を檢定するよりも、一日で檢定出来る數の方がよい。

(2) 抽籤の如き器械的な方法で入學候補者を決定するのは非教育的であるといふこと。これも止むを得ない。小學校の卒業者を入學させる中等學校などで、抽籤法によつて入學者を決定するときは非教育的である。しかし小學校入學の兒童の如き檢定の方法が完全でない場合には、抽籤によることは最も公平である。多少非教育的であるといふ譏があつてもそれは止むを得ない。

(3) 抽籤で駄目になることは誠に忍びないといふこと。これは考へ方である。抽籤で駄目になつたから諦め易いといふ人も多い。檢定で駄目にすれば、子供の優劣を比較したことになるが、抽籤だき運命を諦めるには都合がよいといふ人もある。檢定で不合格になつたのき、抽籤で駄目になつたのき、され程氣持が異なるか、統計をみることも出來ず、また統計したこともないから、明白にどちらがよいと斷言出來ない。兎に角當附屬小學校では抽籤によつて入學候補者を決定した後、檢定を行ふことになつてゐる。それで「抽籤に當つたから、もう入學出來たやうに思つてゐましたが、檢定で入學出來ないきは残念でたまりません」き、不平を並べる人が多いのは誠に困る。しかし全體を檢定したきよりも、檢定者を恨む方が少いことを考へるき、せめてもの慰安である。實に慰安にならぬことを、慰安させねばならぬ檢定者の心事も同情して頂きたい。それならば、檢定を全廢して抽籤だけにしたらどうかきも考へられるが、これも實行出來ない。抽籤だけならばきんなもの志願しないきも限らぬ。遺傳性微毒で口蓋が缺けてゐる兒童が抽籤に當つて入學候補者きなり檢定を受けた實例さへある。(つゞく)

遺傳と環境

霜 田 靜 志

一

幼児教育の問題として、吾々の常に考へなければならぬ最も重要な事は、幼い子供達に對して教育の可能性が果してどれ程あるか、の問題である。今日兒童學の進歩の結果は、幼時に於ける生活經驗、習慣といふものが後年を支配する大きな力となるものである事を明かにして居るが、されば言つて親から遺傳した素質は動かす事が出来ない。そこで何處までが環境によつて動かし得るもので、何處までが遺傳的な動かし得ない素質であるか。此の點を考察して見たい。

遺傳に關してはカリカック家の話が有名である。ゴッダードといふ人が調べた所によるミ、アメリカの獨立戦争の頃にアルチン・カリカックと言ふ者があつたが、從軍中に或る料理店の女と通じた。ところが此の女は低能であつて、生れた男の子は同じく低能であつた。それから後百二十年の間に、子孫が次々にふへて四百八十人になつたが、これ等の子孫中確實に知られて居る百八十九人に就いて調べて見たところ、驚いたことに其の中の百四十三人は低能者であつた。一方マルチンは除隊後、前記の女と手を切つて、普通の女と結婚し、七人の子女を擧げたが、その子孫は四百九十六人であつて、この中には一人の低能者をも出さなかつたといふ事である。

此の事實からして、遺傳の力の大きなことは今更の如く考へられるやうになり、以後此の問題は非常に重要視せられるやうになつたのである。

確かに智能は遺傳する。智能の優れた者の子には、やはり智能の優れた者が生れ、低能の子には低能の生れる事は、動かすべからざる通則となつて居るのである。

古來偉人の家系には多くの偉大なる人物を出して居る。ナポレオンの家系にはナポレオン一世以來優れた人物を出し、プロシア王家の如きはフレデリック大王以來、獨逸の前皇帝カイザー、ウィルヘルム二世に至るまで、英邁なる君主を澤山に出して居る。音樂家なきについて見ても、バッハの一族は八代に至つて二十人以上の優れた音樂家を出して居るし、シューマンは其の妻クララと共に立派な音樂家であるが、其の子供は八人まで音樂家としての立派な才能を現して居る。我が國でも頼山陽の家系の如きは、優れた人物を多く出して居り、農學で有名な佐藤信淵の家は五代に亘つて立派な學者を出して居る。現代でも親が立派な人であり、又其の子供は兄弟揃つていづれも學者政治家等相竝んでそれ／＼偉い人になつて居る者が少くない。即ち智能の高い親からは智能の高い子供の生れる事を、事實に於て示して居る譯である。

二

ところで、それなら智能の高い親からは、いつもきまつて智能の高い子供が生れると言ひ切る事が出来るかどうか。

私の知人の某醫學博士、奥さんも相當に教養のある立派な人であるが、三人の子供があつて末の子供がどうやら低能に近い。色々調べて見たが、普通の子供に比べて著しく頭が低い。上の子供は兄の方も、姉の方も、相當に頭がよいのであるが、此の三番目の男の子ばかりはさうした譯か智能が低い。斯ういふのは一體さう説明したらいいか、さういふ事になる。

併しこれも、遺傳學の法則によつて説明すれば、何等不思議のないものである。メンデルの法則によれば、細胞核内の染色體に含まれる「遺傳子」なる物質があつて、それが子孫に傳へられるのであるといふ。而してそれには優性・劣性がある。あつて、それ等は變化する事なく、其の儘子孫に傳はる。即ち優性が劣性に變る事もなければ、劣性が優性に變る事もな

い。

其處で若しも父母共に優性ばかりの持主であるミすれば、其の子孫には必ず優性ばかりが傳へられる。同様に父優性ばかりであれば、劣性ばかりが傳へられる。ミところが實際に於ては優性ばかりミか、劣性ばかりミかいふ事は全く得ない事であつて、大抵の人は優性劣性の兩方を持つて居るのである。今假に父が優性ばかりの持主であり、母ばかりの持主であるミ、其の子供はミうなるかミいふミ、優劣の雙方を傳へる事になつて、外見上は優性であつた内に劣性を含んで居るミいふ状態になる。世の多くの凡人は悉くこれである。

然るに父母共に優性劣性の兩者を持つて居る場合に於ては、それから生れた子供は、普通には優劣いづれをも爲せる人になるのであるが、ミうかするミ父ミ母ミの劣性ばかりを傳へる子供が出来る事がある。さうかミ思ふミ反對にかりを傳へる場合がある。

之によつて見れば、時に父母に似ざる低能兒が現れたり天才兒が現れたりするもの、決して不思議ではないのである。

三

斯様に見て來るミ、偉人になるか凡人になるか、それミも凡人以下の人間になるかは、生れた時にもう宿命的に定まつて居るのであつて、如何ミもすべからざるものであるかの如くである。これを強く考へるミ、ミうせ生れつき頭のいい者が偉くなるにきまつて居るのであつて、生れつき頭のよくない者は、いくら勉強したつてミうにもなる者でない、ミいふ事になる。此の考はミうかするミ、持つて生れた天才がありさへすれば自然に偉くなるので、何も殊更に努力する必要はない、ミいふやうな誤れる考に陥り易い。ミところが事實に於て、世に天才ミ言はれるやうな人々について見るミ、學者にせよ、藝術家にせよ、或は政治家にせよ、それ等の人々は孰れも人一倍の努力をして居るのである。或るピアニストは毎

日八時間の猛練習を數年に亘つて續けたといふし、或る勤勉な少年は、人竝に勞働して一日の仕事を終へて、皆が寢んでから後、獨りひそかに學問を勉強したといふ。あのフランス畫壇に於ての特異な存在として大に日本人の爲めに氣を吐いた藤田嗣治氏なごも、其の研究時代に於ては、窮乏の中に勉強時間を生み出すために、さうしたら睡眠時間を少くして、それで身體に差支へなきやうにする事が出来るかを研究した、そして長い間の熟練(?)の結果、少い睡眠時間でも十分に元氣を恢復し得るやうになり、それによつて研究の時間を生み出す事が出来た、と語つて居る。昔の話でも、かの新井白石が、勉強中眠くなるを井戸端に出て水をかぶつては眠氣を醒し、それによつて勉強を續けたことなき、有名な話である。其の他、偉人といふ偉人の傳記を読んで見るに、實に涙ぐましいばかりの努力の歴史である事が見られる。天才を誇つて安閑として居て、それで立派な人間になれる例はない。

素質がよくなければ、いくら努力したつて或る程度以上になり得ない事は事實である。併し、さればと言つて何等の努力もしなかつたなら、どんなによい素質を持つて居ても、其の才能を十分に發揮し得ないで終るであらう。或は又素質に恵まれて居り、努力する心も持つて居乍ら、環境に恵まれないために、持つて生れた力を十分に發揮し得ない場合もある。あたう大才を抱き乍ら、終に之を發揮し得ずして世に埋れてしまふ者は之であつて、此の種の人々が實は随分少くないのである。

それ故に持つて生れた素質も重大な問題ではあるが、それを如何に養ひ育て、行くかといふ事も、それに負けない大きな問題である。其處で環境が問題になり教育が問題になるのである。ラスキン^{ラスキン}は彼の名著「近世畫家」第三卷に於て、藝術家の素質を論じて、次のやうに言つて居るが、此の間の消息を明かにして居るものである。

「人間の大小は絶對的に其の生れ落ちる刹那に決定して居る。恰度一つの果物が葡萄であるか否^{あや}であるか決定してゐるの

こ同様に嚴密に決定してゐる。成程教育、境遇、決心、努力は大した働きをする。或る意味で萬事をなす。委しく言へば杏の實が東風の爲めに害せられて、緑の珠のまゝ地に落ちて足下に踏みにぢられるか、或はふつくり立派に成長して、黄金色の天鵝絨のやうな美しさを呈するか、是等の働きによつて定まる。併し葡萄から杏、小人物から偉人物を出すことは、未だ技術も努力も成功しなかつた處である」。

事實此の言葉の通り、葡萄は葡萄であり、杏は杏であることは何にしても變へられはしない。たゞ環境、教育等の力によつて、葡萄は葡萄なりに立派な葡萄に、杏は杏なりに優良な杏に爲し得るまでである。

四

以上述べたる如く、持つて生れた才能は如何にも出来ないものであるが、それは主として知能の方面のことである。然らば性格の方面は如何であるか。

「此の子はさうも父親に似て癪癪持でして」か「此の子の心配性なことは母親をくりでして」か言ふやうな事は、よく言はれる事であるが、斯ういふ癪癪持さか心配性さかいふやうな事は果して遺傳であるかさうか。

一般に昔から、氣質さいふものは生れつきであるとして、多血質さか神經質さか粘液質さかいふやうな分類をして來て居るが、これは何等科學的根據のあるものではない。それが果して遺傳的な素質的なものであるかさうかさいふ事に就いては、今日の所では知能の場合ほさはつきりしたものになつて居ないのである。

併し乍ら最近に至つて醫學的方面の研究から、多少此の方面が明かにせられようとしてゐるのは喜ぶべき事である。近頃重病患者に對し、近親の者の輸血を行ひ、之によつて危き命を救ふ、さいふやうな事が盛に行はれるやうになつたが、此の輸血なるものを爲すに當つて、血液型が研究せられ、其の結果として此の血液型なるものが、人の氣質に關係ある事

が明かにせられたのである。

其處でさういふ血液型の人が、どんな氣質を有するか。之については、學者の研究によるこゝ、大體次のやうな事になつて居る。

O型の人——落ち付いて居る、物に動じない、感情に驅られない、意志の強い人。

A型の人——遠慮深い、内氣な、溫厚な人、心配性で、決斷力は鈍いが、人々争ふことを好まぬ人。

B型の人——氣輕であつさりして居て、物事を長く氣にせぬ人、快活で、社交的で、事を爲すに派手な人。

AB型の人——此の型の人は、大體外面的にはB型になつて居て、氣輕な快活な人のやうに見えて、其の實内面的にはA型を有して居て、中々心配性の所を持つて居るのであつて、一見氣質に矛盾があつて、判斷しにくい所がある。

以上の通りであるが、之を一括して言へば、結局に於てO型及びB型の人は、物事に對し常に發動的に進んでやらうとする人で、積極的な人であるが、A型及びAB型の人は、引込思案な消極的な人であると言ふ事が出来る。

而して是等の血液型は總て遺傳的なものであるから、若し此の説が正しいとすれば、氣質といふものは、生れ落ちるさきから定まつて居るものであると言ふ事が出来る。併し乍ら子供の性格といふものは、血液型だけによつて決し得る程簡單なものではない。持つて生れた氣質は土臺になるにしても、その上に色々な生活習慣が積み重ねられて行つて、それが遂に性格とか性質とかいふものになるのである。殊にこれがためには、幼児に於ける生活經驗が非常に重要な役割を占めて居るのである。

それ故に、子供の性格を形造る上に最も大事なるものは、その子供の健康狀態、誕生後三四年間に受ける取扱ひの如何であつて、此の事は今日乳幼児についての實驗的研究の結果によつても明かにせられて居るのである。

されば言ふ事をきかない我儘な手のつけられない子供が出来上るのも、人なつこい優しい良い子供が出来上るのも、決して生れつきの氣質によるのではなくて、實は赤ん坊の時から母の取扱ひ方の如何によるものである、こいふ事が出来る。

アーリットが「嬰兒及び幼兒の心理學」の中で、次のやうに述べて居るのは、此の事を最もよく證明するものである。

子供が生れて間もない中から、一寸でも手が汚れたら直ぐ洗つてやる。這ふやうになつてからは綺麗にしなければいけない事を言つて、つぎめて手足を洗つてやり、屢々着物を取り換へてやる。少し大きくなつたら不潔物の中には有害な病菌の居る事を知らせる。食べ物についても氣をつけないければならぬ事を教へる。斯うして居るこ、子供は全く病的に不潔物を恐れるやうになる。食物に對しても臆病になり生物なまを食べないやうになる。次に友達との遊びについて有害な方面を説いてきかせ、よその子供と遊ぶのは悪い言葉を覺えたり、惡戯を覺えたり、喧嘩をする事を覺えたりするだけで、何にも益のない事を繰り返し話してやり、又實際害になつた事實を指摘してやる。さうするこ今度は友達と遊ぶこも恐れるやうになる。

斯ういふやうに育て、行くこ、子供は第一に不潔なものに對して異常に恐れる、潔癖を通り越して清潔恐怖症といふやうな状態になる、従つて子供らしい泥遊びなどは一切しない。第二に食物に對する恐怖から、食べ物が少數のものに限られて來て、榮養が悪くなる。従つて短氣になり、神經質になる。第三には友達と遊ぶこを恐れて避けるやうになり、全く反社會的な子供になる。斯くして小學校に這入るまでには全く性格異常者となつてしまふ。

以上のやうな例は、アーリットの説明を待つまでもなく、吾々の周圍にざらに見られる事象であつて、母親が神經質であるこ子供も神經質になつて來るこいふのは、母の遺傳によつてさうなるこいふよりも、寧ろ母親が子供をさうならしむべく仕向けて居る、こいふべきである。

行動派の心理學者ワットソンが彼の名著「子供は如何に育てらるべきか」(細井齋田共譯最近出版)に於て述べて居る所のものは、更に一層此の點を強調する。

乳幼児について、其の誕生當時の活動狀態を見るに、呼吸さか、手、足、體なごの運動さか、泣き笑ひのやうな單純な活動さへも、ぢきに母親の訓練、或は乳兒の生活環境からの影響によつて變つて來る事を見せ始める。乳兒がほゝ笑みかけたり、泣き叫んだり、息をつめたり、鼓動を早めたりおそめたり、さういふ事をするのは、總て家庭内に於ける日々の出來事の影響によるのである。

併し、普通に本能と言はれてゐるもので、發育して行く間に、周圍との關係なしに、自然に現れて來る遺傳的感情行動があるではないか、さういふ者がある。登攀、模倣、競争、敵愾心、適合性、所有慾、盜癖、組織能力、遊戲、好奇心、社交性、内氣、潔癖、謙遜、羞恥心、愛情、嫉妬、母性愛等は、後年當然現れて、生涯人を支配するもので、兩親の如何にもする事の出來ない遺傳による本能であらうと考へられる。實際かういふものは育児法の如何にもよらない様に思はれるし、今までの大多數の心理學派の學者達も亦、同様の意見を持つて居るやうである。吾々行動派心理學者も、實驗的研究を始めるまでは、少くとも前述の或るものは、生れ出た時から完全に備つて居るものであらうと考へて居た。しかし、實驗をやつて見て、これ等の本能と呼ばれて居るものゝ現れるのを待つて見たが、それは無駄であつた。今や實驗の結果、吾々は總て前述の人間の感情行動は、母親によつてか、乳兒の育つ環境によつてか、いづれかによつて造り上げられるものである事を思はざるを得なくなつた。即ち、斯ういふものは決して本能では無いのである。後年現れ來るものは悉く幼時に育児者が造り上げてしまつた所のものゝ結果なのである。

吾々は子供の内部から自づと發達するものは何にも無いと信じて居る。若し子供にして健全な肉體、即ち満足な手足の

數ミ、眼ミ、それに誕生の時に現れる二三の基本的動作さへ備はれば、望みにまかせて天才を、教養ある紳士を、或は亂暴者を、無賴漢を造り上げる爲めの材料には缺けてゐないと思つて居るのである。

以上の言はやゝ一方を強調し過ぎた嫌ひが無い譯でもない。子供の内部から自然に發達するものは何にも無い斷言せるあたりは、確かに言ひ過ぎて居るやうにも思はれる。併し乍ら從來餘りにも總てを生れつきに歸して、責任を逃れようとした傾きあるに對し、環境ミ取扱ひミの重要性を指摘したことは、吾々の衷心から贊意を表する所である。而もそれが乳幼児に對する精細なる科學的實驗の結果に基いての主張である事を思へば、尙更のこゝである。

五

以上知能及び性格の兩方面から、遺傳的素質はどれ程のものであり、生後環境や教育の如何によつて變化せしむべきは、どれ程の部分であるかを、略々明かにし得たミ信する。而して環境ミ教育ミによつて形作られる部分が如何に大きいか、こゝいふ迄も、又それが乳幼児の時期に於て大部分形作られるものであるこゝいふ事も、十分之を明かにしたつもりである。此處に於て、吾々は今更の如く母の任務の重要さを思ふものであり、又家庭ミ協力して、子供のために「母の手」ミなるべき幼稚園の任務の如何に大切であるかを思ふものである。

童話は何處にあるか

— 童話の本質 —

石 井 庄 司

「何かよいお話の本はございませんでせうか。子供にせがまれて困つて居ります……」といふやうなことを、よく世の若いお母様方からきかされる。桃太郎の話・花咲爺の話・一寸法師の話……自分の知つてゐる限りのお話はすっかり話して度々繰返してしまつたので、子供に飽かれ、至急種本を仕入れたいといふわけである。かやうな質問は單に若いお母様にかぎらず、幼稚園や小學校の先生方からも、時々きかされることである。

「二冊も三冊も讀んでみても、子供に聞かせるやうなお話が一つも見つからないのです。どんな本を讀んだらいいでせう？」と訴へて來た若い保姆の方がある。お話はどこにあるのか、多くの人々が探し求めてゐる。

一體、童話は何處にあるか。これは仲々大きな問題である。早速役立たせるためで種本を探す意味に於てばかりではなく、むしろ童話の本質を考へようとする者にまつて、大きな問題である。そして此の事は、種本を探す仕事よりも、一層重大な問題なのである。しかも非常に多くの人々は、外に求めるに急であつて、此の童話の本質といふやうな内の問題は殆ど等閑に附して顧みて居ないやうである。そこでいつも失望し落膽し種切れを託つことになるのではなからうか。

「童話は何處にあるか」

「こいふ問に對して、自分はやゝ逆説的に」

「童話は何處にでもある」

「答へたい。いふこゝろは、此の問題は、かやうに外部に向つて出す問題ではなくて、もつこ内部に向けらるべきものと思ふからである。」

「よいお話はありませんか」人に訊く前に、一般に童話こいふものゝあるべき世界について、考へてみなければならぬのである。

四歳の子供にまつては相當に重い椅子を一人でギーギー引きよせてびたりこテーブルに喰ツつけた。クッションを平にしてから、息をはづませて、肱掛から横さまによぢ上つて、きかりこクッションの上に懸り、足をふんばり兩肱を張つて、意氣込んでゐる。傍で新聞を見ながらそれこなく眺めてゐた自分に向つて、「ガソリンを入れて下さい」こ、大きな聲で叫んだ。椅子を引つぱり出した頃から、一體何をするのかこ注意してゐた自分こまつて、ガソリンを入れてくれこいふ此の要求には全くほゝゑまされた。そこで咄嗟の間に、手にしてゐた新聞を卷いた筈でテーブルの下、子供の足の置いてゐる所へ向つて、シューこさしてやつた。よろこんだ子供はブーブーこ肱を動かしてゐる。それからこの小さい運轉手は更に「ヘッドライト、こもつてゐますか」こ訊いた。ヘッドライトはヘッドライトのここであるが、それが何處にあるのかよくわからないので、茫然こしてゐるこ、彼は矢庭に椅子から下りて、注意深く腰をかゝめてのぞき込みながらテーブルの前に出て來た。そしてヘッドライトだこいつて示したものをみるこ、それはテーブルの脚の根の角にある籐で造られた二つ

の輪であつた。成る程、ヘッドライトのやうに兩方で眼をむいてゐる。さては平生自分の留守の間に此の部屋に入り込んで遊び慣れた自動車遊びさわかつたのである。

ロバート・ルイ・ステイヴンソンが「蒲團のお國」^{ロバート・ルイ・ステイヴンソン}といふ童話の中で、病氣で寢てゐる時、ベッドに玩具をありつたけ持つてきて、鉛の兵隊が色々の軍服を着て練兵し、夜具の間や岡を抜けて通るのを見守つたり、また敷布の海のおちこちに多くの艦隊を送り出し、また町を造つたりすることを歌つてゐるが、これは決して詩人のこしらへごみではなくて、子供の普通の生活であると思ふのである。

日當りのよい庭の片隅に一枚の草座を敷く、それはすぐお家になつたり、學校になつたり、また汽車や電車の發着するステーションになつたり、時には海中の孤島となることもある。子供の世界は實に自由である。此の自由は一に子供の想像力に據る。此の自由の世界に入るこゝの出来ないものは、童話の世界を窺ふこゝも出来ない。童話は何處にあるかを探す代りに、自分が果してかやうな想像力を持つてゐるかどうかを考へてみたいのである。外に向つての間ではなく、内に向つての間でなければならぬわけである。そして一度此の想像力を持ち得たものにまつては、童話の世界は何處にでもあり得るこゝとなる。そして、「想像力を賦與された者は言はず精靈を呼び出すこゝが出来ぬ」といつたショーペンハッアーの言葉が今更のやうに身に沁みて感じられるのである。

三

以上述べた童話の世界は、童話のあるべき世界ではあるが、それだけで直ぐ童話そのものといふこゝは出来ない。子供の世界に浸つてさへ居れば、それで自ら童話が成立するやうに考へられ、まだかやうな子供の世界の醍醐味に入るこゝこそ肝要であるやうに思はれるこゝがある。夏目漱石の「草枕」の始めに詩や畫の境地を述べて、住みにくい世から、住みに

くい煩ひを引きぬいて、有難い世界をまのあたり寫すのが詩であり、畫であるこいひ、すぐ次に、「こまかに云へば寫さないでもよい。唯まのあたりに見れば、そこに詩も生き、歌も湧く。著想を紙に落さぬこも響鏘きやうそうの音は胸裏に起る。丹青は畫架に向つて塗抹せんでも五彩の絢爛は自から心眼に映る」。こいひ、「無聲の詩人」「無色の畫家」こいふやうな言葉を用ひてゐる。これは議論としては誠に面白く、所謂東洋的で神祕である。しかし藝術論としては、半面の眞理にすぎないやうに、いま想像力が與へられて、自由に子供の世界に遊んで、陶然してゐるだけでは、童話はまだ成立たない。童話は「こまば」によつて始めて現成する。「こまば」のない童話こいふものは考へるこも出来ないのである。

言靈ことだまの幸まきはふ國こくこいはれて來た我が國でも、久しい間に、「こまば」は傷められ、さいなまされ、磨り減らされて來た。童話の世界からこそもう一度、新鮮な、純正な、「大和こまば」が生れて來なくてはならないのである。しかも、今の童話にはさういふきざしが見えない。

こゝでもう一度、童話は何處にあるかこいふ問を改めて見直さなければならぬ。大人の讀物をそのまゝ書きかへてのけば、すぐ子供の童話が出来ろと思ふのが、抑ゝの大きな誤りである。面白いこか、をかしいこか、また悲しいこか、淋しいこかいつた話の筋だけが決して、童話のある場所ではない。身のためになるこか、もの知りになるこかの話だけが童話ではないのである。童話の在處がかやうな、外的な方面に置かれてゐるために、「こまば」こいふ方面は全く顧みられないのである。

「よく晴れ渡つた空には飛行機が高く高く飛んでゐます」。これはある童話の書出しの一節である。抽象的な形骸の羅列であつて、童話ではない。大人のこまばであつて、まだまだ子供のこまばにはなつてゐない。

「京の都の、あるお公家さまのおやしきの裏庭の片すみに、まつ白な菊が一りん、大きくさいてゐました」。

これもある人の童話といふものゝ一節である。なんこいふまじろこしい表現であらう。こんな子供のこゝばがここにあらうか。

「青く晴れた十月の或午前でした」。

これでも童話なのであらうか、驚く外はない。

「みち子の五年生のときの三月に、東京から来た大野さんといふ子が級へはいつて来ました」。

これが幼年童話ミ銘打つた作品の一節である。子供ならば、大人つて、さうしてかうも文がまづいのだらうこいふであらう。

「母は流しで米をこいでゐた。僕はシャツだけきて庭で小さい二三男をあそんでゐる、弟が外で、『母宮下の家の馬、死んだ』と大きな聲で言ふ。母は『馬死んだつてい』と言つた。……足は焼きつくほご暑い。いつさへも、一人で家の背戸の道を走つた」。

これは雑誌赤い鳥にある子供の文である。兩々相比べてみれば、思ひ半ばに過ぎるものがあらう。しかし、拙いの手のはまだいゝ。今日一般に非常に多く流布されてゐる安値の繪本雑誌にある言葉に至つては、實に戦慄を覚えしめるものが多い。子供の魂は根柢から壞されてゆく。なんこかしなければならぬ。尤も今の世の中では、かういふ粗悪なものゝはびこるのも致方がないのであらう。

そこで、世のお母様方に申し上げたいことは、よいお話を外に求めず、まづ皆様の心にきいて戴き、次に皆様の「こゝば」を働かせて戴きたいこいふことである。

英文學者で、宗教に造詣の深い中村詳一氏が、十數年前にある雑誌に、「時計」といふ詩を發表せられたことがある。今、

手許になく、その全文をお眼にかけるこゝが出来ないので残念であるが、なんでも、さる日曜に子供と一緒に家に居て、子供のお守に困つた時のこゝであつた。なんぞか退屈をまぎらさうとて、机上にあつた置時計を持ち出して、「カッチン、カッチンいつてでせう」といつて見せたこゝろが子供の眼は急に輝いた。それに元氣を得たので、「その長い針がこゝまで来るミチーンミなるんだよ」といふと、アハハハ……ミ子供はよろこぶ。何が面白いのかわからないが、また繰返して「今度はチーン、チーンミ二つ鳴るんだよ」といつた處が更によろこんだ。そこで次々に繰返して、終に十二時にまで至つたといふのであつたと思ふ。實に簡単なこゝではあるが、こゝに童話の世界から生れた、まこゝの「こゝば」がある。詩であり、また一篇の童話である。

中村さんの詩を見た頃であつた。早稻田裏のさる古本屋の店先で見た光景を忘れるこゝが出来ない。若いおかみさんミいつた人が、針を運ばせながら、上り框にもたれてゐる五つ六つの女の兒に、しづかに一寸法師の話をしてゐた。何がないに棚の本を引き出してゐた自分は、ふとその話聲に聴き入つて了つてゐた。話は間もなく終つたが、その時、いかにも嬉しさに「おばちゃん、ありがと」と言つて、吾が家へ駆け戻つた女の兒の後姿を見送つて、また満ち足りた心の婦人の様子。いくらありふれたお話であつても、本當の「こゝば」で語られるとき、それは永久に新しいものとなる。

童話は何處にあるかといふ問題は、卑近であるが、しかも無限に深い意義を持つ問題である。(昭和一〇、二、二八)

幼稚園の圖畫及び手工に就いて (三)

お仕事に對する統計的觀察

八王子幼稚園長

伊 藤 堅 逸

三 幼兒に興味ある仕事

さきに「仕事に對する幼兒の興味」云ふ表題を掲げ、仕事云ふものに對して幼兒がどう云ふやうに興味をもつてゐるか云ふ點を専ら考察したのであるが、こゝには仕事の中でどう云ふものに幼兒は興味をもつてゐるか、即ち圖畫ぬいとり折紙粘土など種々ある中で幼兒が興味をもつてするのはどんなものであるか云ふことについて述べて見たいのである。

さきに保育カードを掲げて置いたが、それには圖畫及び手工の種目として圖畫塗繪ぬいとり組織織紙きり紙折紙厚紙細工豆細工粘土細工貼紙細工木工細工其他となつてゐる。此の中で塗繪は五年度限りで或る考へのもとに私の所ではさせないことにしたから六年度から塗繪は統計には全然出て來ない。

方法と幼兒の興味とは非常に關係の深いものであるが、私の取つてゐる方法は前にも述べたやうに全く自由主義で、選擇にも方法にも何らの干渉を與へない。先生の方から敢て教へやうともしない。若し幼兒の方から何かたづねるやうなことのあつた場合は簡單な指導を與へる位である。上手に何か出来上ることよりもさせるのが本意である。云つて無理

第 十 五 表

		圖 畫	ヌ リ エ	ぬ い と り	組 紙	織 紙	切 紙	た み 紙	厚 紙	豆 細 工	粘 土	貼 紙	木 工	其 他	計
男	實數	771	95	15	3	18	340	194	28	60	106	3	4	1	1638
	%	47.1	5.8	1.	0.2	1.1	20.3	11.9	1.8	3.7	6.5	0.2	0.3	0.1	100
女	實數	639	198	58	33	26	889	276	112	51	261	15	0	42	2600
	%	24.6	7.6	2.2	1.2	1.	34.2	10.6	4.3	2.	10.1	0.6	0	1.6	100
計	實數	1410	293	73	36	44	1229	470	140	111	367	18	4	43	4238
	%	33.3	6.9	1.7	0.9	1.	29.	11.1	3.3	2.6	8.7	0.4	0.1	1.	100

に幼児を引きこめたり引き込んだりするこゝは絶対にしない。

幼児の興味は大體に於てその精神的發達の過程に條件付けられてゐるものである。こゝは心理學的に既に明かである、幼児の興味に適すべき幾つかの異つたものが幾つかある場合それらの中では幼児の興味は極めて變り易い性質のものである。例へば圖畫をやらうと思つてゐる所に誰か粘土細工をやつてゐるのを見るこゝ自分も圖畫をやめて粘土をやつて見やうと思ふ氣になるこゝがある。或は自分は何もしないで外へ出て遊びたいと思つてゐた所へ他のものが「○○ちゃんは何をする？僕は圖畫を書く」こゝでも云はれれば外へ出て遊ぶこゝ云ふ心がこゝへやう行つてしまつて「僕も圖畫を書く、一緒に書かないか」なこゝ云ふ、然う云ふやうに幼児の興味は内外の僅かな刺激により極めて變り易いものである。して見るこゝ幼児の興味を統計的に見るこゝは全然無益のやうに思はれるのであるが、併し長い期間に亙りて統計を取つて見るこゝ自からに興味の集まる状態を明瞭に認めるこゝが出来るのである。

では早速次ぎに五年度の統計から先づ掲げて見るこゝにしよう。

此れは全體から見たものであるが、これによるこゝ最も多いのは圖畫で三三・三%で、それにつぐものは切紙で二九%になつてゐる。他は皆それよりもつゝ少なうたゝみ紙、粘土ぬり、厚紙豆細工ぬい、織紙貼紙木工こゝ云ふ順序になつてゐる。

故に全體から見るこゝ圖畫こゝ切紙は最も興味のあるもので、之れに次ぐものはたゝみ

紙粘土ぬり等である。これを男女に於て見るに、其何づれに於ても圖畫と切紙が最も興味あるものとなつてゐるが男では切紙よりか圖畫が遙かに多く、女では圖畫よりか切紙が遙かに多くなつてゐる。そして圖畫は女では二四六であるが男では四七・一で男の方が女よりか遙かに圖畫に對する興味は多い、切紙は男の二〇・三に對し女は三四・二で、女の方が遙かに多い。たゞみ紙は男女何づれに於ても興味の第三位にあつて男一・九、女一〇・六で男女の差は極めて少く男の方が幾分か多い位である。次ぎは粘土で、これも男女何れに於てもたゞみ紙に次ぐ興味あるもので男は六・五、女は一〇・一で女の方が多い、其次ぎはぬり繪で男女ともこれは興味の第五位にある。男五・八、女七・六で僅かな差ではあるが矢張り女の方が多い。興味の第六位にあるものは男では豆細工で女では厚紙細工となつてゐる。そして豆細工は女よりも男に多く、厚紙は男よりも女に多い。ぬいこりは男よりも女に多く織紙は男女殆んど同じであるが男の方が少し多い。貼紙組紙は何づれも男よりも女に多く、木工は男にのみある。

次ぎの表は興味の多いものから順次に男女別々に種目を並べたもので以上述べた所をこれによりて一目して明かにする事が出来る。

男		順位	女	
書	圖	1	紙	切
紙	切	2	畫	圖
紙	折	3	紙	折
繪	粘	4	土	粘
繪	塗	5	繪	塗
細	豆	6	紙	厚
紙	厚	7	いと	ぬい
紙	織	8	工	細
いと	ぬい	9	紙	組
工	木	10	紙	織
紙	組	11	紙	貼
紙	貼			

男でも女でも小さい組の方が多くなつてゐる。そしてこれは組を通じて男よりも女の方に興味が多くなつてゐる。次ぎに折紙であるが、これは大きい組も小さい組も一・二である。男女別々に見れば殆んど皆同じ位であるが小さい組の男が最も多く同じ組の女が最も少くなつてゐる。次ぎに粘土、これは大きい組よりか小さい組の方に多く、そして男よりも女が多い。塗繪、は圖畫の一種のやうであるが圖畫とは其性質が全く異つてゐるだけにこれは大きい組でも小さい組でも女の方に多くなつてゐる。組別には六・九で同數となつて

第 十 六 表

			圖 畫	塗 繪	ぬ い と り	組 紙	織 紙	切 紙	折 紙	厚 紙	豆 細 工	粘 土	貼 紙	木 工	其 他	計
大きい組	男	實數	638	78	11	3	10	214	134	20	42	68	1	4	1	1234
		%	52.1	6.4	1.	0.2	0.8	17.5	10.9	1.6	3.4	5.6	0.	0.3	0.1	100
	女	實數	404	116	49	262	16	498	176	69	43	140	8	0	26	1571
		%	25.7	7.4	3.1	1.7	1.	31.7	11.2	4.4	2.7	8.9	0.5		1.7	100
計		實數	1042	194	60	29	26	712	310	89	85	208	9	4	27	2795
		%	87.3	6.9	2.1	1.1	0.9	25.5	11.1	3.2	3.	7.5	0.3	0.1	1.	100
小さい組	男	實數	133	17	4	0	8.	126	60	8	18	38	2	0	0	414
		%	32.1	4.1	1.	0	1.9	30.5	14.5	1.9	4.3	9.2	0.5	0	0	100
	女	實數	235	82	9	7	10	391	100	43	8	121	7	0	16	1029
		%	22.8	7.9	0.9	0.7	1.	37.9	9.7	4.2	0.8	11.8	0.7		1.6	100
計		實數	368	99	13	7	18	517	160	51	26	159	9	0	16	1443
		%	25.5	6.9	0.9	0.5	1.2	35.8	11.1	3.5	1.8	11.1	0.6		1.1	100

る。ぬいとりは大きい組の方が小さい組より多く男女を比較すれば大きい組では男より女に多く小さい組では女より男の方が多くなつてゐるが其差は極めて少ない。豆細工は小さい組より大きい組に多く、女より男に多い、厚紙細工は二組とも殆んど同じであるが小さい組に幾分か多くなつてゐる、大きい組では男よりも女の方が多く、小さい組では女よりも次ぎにこれを組別にして觀察して見るに即ち上に掲げる表の如くである。

これを見るに、この組でも、又組の男女も別々にして見ても圖畫と切紙は最も多くなつてゐる、圖畫は大きい組でも小さい組でも男の方が女よりも多い。そして小さい組の男より大きい組の男が多い、だから圖畫は大きい組の男に興味が多い。女の方でも小さい組より大きい組の方が圖畫に多く興味をもつてゐる、全體から見て圖畫に對する興味は大きい組は三七・三で小さい組は二五・五であるから小さい組より大きい組が遙かに多いのである。次ぎに切紙を見るに、これは圖畫とは全く反對で大きい組より小さい組の男の方が多くなつてゐる。組織紙貼紙木工等については別に云ふことを略す。斯る點を明か

小さい組	順位	大きい組
小切	1	大圖
紙	2	紙切
畫	3	紙折
折	4	土粘
粘	5	土繪
塗	6	紙厚
厚	7	豆細工
豆	8	紙ねいとり
織	9	紙組
ねいとり	10	紙織
貼	11	紙貼
組	12	木工

べきものが殆んど一定してゐるため材料そのものゝ變化から幼兒の興味に影響されるやうなことは先づないものと見なければならぬ。併し塗繪厚紙ぬいり等には一定した材料なく先生の工夫次第で材料には常に變化がある故に其變化が幼兒に影響することは決して少くない。つまり此れらのものでは材料の中に幼兒に氣に入つたものがあることをやつて見やうとする興味が湧いて來るのである。だから材料の如何によつてはそれに對する幼兒の興味も可成り上つて來るものと見なければならぬ。これは云へ此等種目の中でもその材料の如何によらず自然幼兒の興味の集まつて來るものと然うでないものとがあるは勿論のことである。

自由主義に於ては初め漠然と種々なるものゝ材料を投じて見るが漸次幼兒の興味の集る方面に多くの材料を投じなければならぬことゝなるから、結局幼兒の興味の薄い方面は忽にする傾きが生ずるものである。それで幼兒の興味の多い方面には材料を供給する側方でも次ぎから次ぎへ變つたものを云ふので材料に苦心する、だから益々幼兒の興味も其方へ進んで來ることを云ふことになるかも知れない。併したまひ幼兒の興味が薄い方面のものでも、何時要求されても其要求に應ずるだけのことは常に準備してゐる。

さて説明が少々脇途にはいつたやうであるが、前に掲げた興味の順位は、それだから與へる材料によりて變り得るもの

にするには組別に種目の順位を作つて見るに次ぎの如くなる。

此れで見るに初めの圖畫と紙切が前後になつてゐるのみで豆細工までは兩方とも同じ順位を保つてゐるが小さい組では織紙が大きい組よりも遙かに高くぬいりは兩方とも八位にある。

所で此等の種目の中で圖畫紙折紙粘土豆細工織紙等は其材料となる

である云ふ事は豫想し得られるのである。然し自然的に幼児の興味に適したものは三年四年と年を重ねるに共に興味の順位も矢張り自然と高くなつて来るものである。右に掲げて既に観察した統計は五年度のもので、教育の方針を自由主義に改めた最初の一年間の統計である。

次に掲げるものは其二年目及三年目の統計即ち六年度七年度の統計である。(八年度の統計もあるが大概大同小異で五六七の三年の統計を擧げるなら既に充分と思ふのでこゝには慙省いた)幼稚園では一年毎に大部分の幼児は變つて新しくなる。故に興味の傾向も幾分か變つてゐるものと思はれるのであるが幼児の興味は大體に於て同じ傾向を有してゐる事をこれらの統計から知るこゝが出来ゐる。これらの表でぬい糸が一回も出てゐないのは前にも一言したと思ふが六年度から或る考へのもゝに私の幼稚園ではさせないこゝにしたからである。貼紙木工は「其他」の中に加算し別々に計算するのを省くこゝにした。

この表を見るに六年度の表では切紙が第一位にあつてその次にぬい糸となつてゐる。圖畫はぬい糸は極めて僅かの差ではあるが圖畫が第三位にある。それに次いでのはたゝみ紙粘土厚紙と云ふ順序となつてゐる、更に七年度の表で見ると切紙は矢張り最高でそれに次いで圖畫となつて、ぬい糸は第三位になつてゐる、ぬい糸に次いでのはたゝみ紙であるが矢張り相當多い方である。それから一段

女	順位	男
切紙	1	圖畫
ぬいと	2	切紙
折紙	3	ぬいと
圖畫	4	厚紙
粘土	5	折紙
厚紙	6	粘土
織紙	7	豆細工
豆細工	8	織紙
組紙	9	組紙

女	順位	男
切紙	1	圖畫
ぬいと	2	切紙
圖畫	3	折紙
折紙	4	ぬいと
厚紙	5	厚紙
織紙	6	粘土
粘土	7	織紙
組紙	8	豆細工
豆細工	9	組紙

あるが矢張り相當多い方である。それから一段さなくなつて厚紙、織紙、粘土、豆細工、組紙と云ふ順序になつてゐる。此の二つの表を前掲五年度のに比較して見て著しく相異してゐる點は、ぬい糸が七位から急に二位三位の所に

第 十 七 表 (六年度)

		圖 畫	ぬ り ゑ	ぬ い と り	組 紙	織 紙	切 紙	た み 紙	厚 紙	豆 細 工	粘 土	貼 紙	木 工	其 他	計
男	實數	273		108	1	9	166	97	99	28	73			38	893
	%	30.57		12.09	0.11	1.01	18.58	10.86	11.56	3.13	8.17			3.92	100
女	實數	203		379	10	35	1027	304	90	23	153			81	2310
	%	8.79		16.41	0.43	1.52	44.46	13.16	3.90	1.00	6.84			3.49	100
計	實數	477		487	11	44	1193	401	189	51	221			119	3203
	%	14.89		15.20	0.34	1.37	37.27	12.52	5.90	1.59	7.21			3.71	100

第 十 八 表 (七年度)

		圖 畫	ぬ り ゑ	ぬ い と り	組 紙	織 紙	切 紙	た み 紙	厚 紙	豆 細 工	粘 土	貼 紙	木 工	其 他	計
男	實數	420		186	4	41	237	203	114	23	50			24	1352
	%	31.08		13.76	0.30	3.03	21.23	15.01	8.43	1.70	3.70			1.75	100
女	實數	273		351	22	94	516	273	102	10	81			41	1763
	%	15.48		19.91	1.25	5.33	29.27	15.48	5.79	0.57	4.59			2.33	100
計	實數	693		537	26	135	803	476	216	33	131			65	3115
	%	22.25		17.23	0.83	4.33	25.78	15.28	6.93	1.06	4.21			2.1	100

まで高くなつてゐる點である。此れは、ぬいこりが面白いものだ云ふことが幼児に漸やく解つて來たからでもあらうが、又材料を與へる先生の方でもこれが幼児に興味があるものだ云つて次ぎから次ぎへき種々變つた材料を準備して與へた爲めであるかも知れない。だから五年度にぬいこりが少なかつたのは幼児がまだこれに對する興味を味ひ得るに至らなかつた云ふことゝ與へる材料が貧弱であつたからである。見るの外はない、二年目の六年度からは幼児の方でもぬいこりの興味をいよく味ふことが出来るやうになり材料を與へる方でも幼児の其傾向を見て材料を豊富にしたのでぬいこりに對する興味が著しく高くなつて來たのであらう。粘土は五年度では四位、六年度では五位、七年度では七位になつてゐる。併し冬期にも此れをなしつゞけることが出来るものであるならまだバ

1セントは多くなり順位も高くなるものと見なければならぬ。或はぬいざりたゝみ紙などゝいゝ適する程になるかも知れない。實際上から見てゐても幼児は粘土に大なる興味を有つてゐるやうである。

さて次に男女別にして見るに、六年度では男は圖書が最も多く第一位を占め次に切紙ぬいざり厚紙たゝみ紙粘土と云ふ順序になり、豆細工織紙組紙は皆極めて少ない、女は切紙が第一位で其次ぎにぬいざりたゝみ紙粘土と云ふ順序になり、紙豆細工組紙は皆一段と少くなつてゐる。女より男に多きものは圖書厚紙豆細工粘土等で其他は皆男よりも女の方が多くなつてゐる。七年度では男は矢張り圖書が第一位で其次ぎに切紙たゝみ紙ぬいざり厚紙粘土豆細工織紙組紙と云ふ順序になつて居り、女は切紙が第一位で其次ぎにぬいざり圖書たゝみ紙厚紙織紙粘土組紙豆細工と云ふ順序になつてゐる。七年度で女より男の方に多きものは圖書厚紙豆細工等で其他は皆男よりも女の方に多い。三年間を通じて男は特に圖書厚紙豆細工に最も多くの興味を有して居ることが解る。織紙たゝみ紙粘土等は男も相當興味あるものではあるが男より女に幾分か興味が多い。厚紙は男女何づれにも興味はあるが何づれか云へば男の方に多い。切紙ぬいざりは到底男の及ぶ所でない、切紙は男の圖書と同様女に最も多く興味あるもので、此の二つは男女興味のおよき對照となつてゐる。ぬいざりは男にも可成り興味はあるが女には到底及ばない。

小さい組	順位	大きい組
切紙	1	切紙
圖書	2	ぬいと
ぬいと	3	圖書
粘土	4	折紙
折紙	5	厚紙
織紙	6	粘土
豆細工	7	豆細工
厚紙	8	織紙
組紙	9	組紙

次にこれを組別にして觀察して見るに六年度では圖書は大きい組よりも小さい組の方が多い。併し七年度では小さい組よりも大きい組の方が多くなつてゐる五年度に於ても矢張り小さい組よりも大きい組の方が多くなつてゐる。そして圖書の最も多いのは五年度と七年度では大きい組の男六年度では小さい組の男で最も少ないのは五年度と七年度では小さい組の女であるが六年度では大きい組の女になつてゐる

第 十 九 表 (六年度)

		圖 畫	塗 繪	ぬ い と り	組 紙	織 紙	切 紙	折 紙	厚 紙	豆 細 工	粘 土	貼 紙	木 工	其 他	計
大きい組	男	實數	19.4	81		9	142	77	95	23	33			27	681
		%	28.49	11.89		1.32	22.32	11.31	13.95	3.38	4.85			2.49	100
	女	實數	166	296	10	27	837	265	88	21	119			77	1906
		%	8.71	15.53	0.53	1.42	43.91	13.38	4.62	1.10	6.24			4.56	100?
小さい組	計	實數	360	377	10	36	979	342	183	44	152			104	2587
		%	13.92	14.61	0.39	1.39	37.87	13.22	7.07	1.70	5.88			3.95	100
	男	實數	80	27	1		24	20	4	5	40			11	212
		%	37.74	12.74	0.47		11.32	9.43	1.89	2.36	18.87			5.18	100
小さい組	女	實數	37	83		8	190	39	2	2	39			4	404
		%	9.16	20.54		1.98	47.03	39.65	0.50	0.50	9.65			0.99	100
	計	實數	117	110	1	8	214	59	6	7	79			15	616
		%	18.99	07.86	0.16	1.30	34.74	9.58	0.97	1.44	12.82			2.44	100

第 二 十 表 (七年度)

		圖 畫	塗 繪	ぬ い と り	組 紙	織 紙	切 紙	折 紙	厚 紙	豆 細 工	粘 土	貼 紙	木 工	其 他	計
大きい組	男	實數	270	114	1	18	141	106	56	10	22			13	751
		%	35.95	15.18	0.13	2.40	18.78	14.11	7.46	1.33	2.93			1.73	100
	女	實數	132	147	14	53	232	122	61	3	35			27	826
		%	15.98	17.80	1.70	6.42	28.09	14.77	7.39	0.36	4.24			3.25	100
小さい組	計	實數	402	261	15	71	373	228	117	13	57			40	1577
		%	25.49	16.55	0.95	4.50	23.65	14.46	7.42	0.82	3.61			2.55	100
	男	實數	150	72	3	23	146	97	58	13	28			11	601
		%	24.96	11.98	0.50	3.83	24.29	16.14	9.65	2.16	4.66			1.83	100
小さい組	女	實數	141	204	8	41	284	151	41	7	46			14	937
		%	15.05	21.77	0.85	4.38	30.31	16.12	4.38	0.75	4.91			1.48	100
	計	實數	291	276	11	64	430	248	99	20	74			25	1538
		%	18.91	17.95	0.72	4.16	27.96	16.13	6.44	1.30	4.81			1.62	100

組	位置	組	大
小さい	1	組	画
切	2	切	紙
図	3	ぬい	と
ぬい	4	折	紙
と	5	厚	紙
折	6	織	紙
厚	7	粘	土
粘	8	組	工
織	9	豆	細
豆		組	
組			

る。ぬいこりは六年度七年度とも大きい組よりも小さい組の方が多く、最も多いのは六年度七年度とも小さい組の女で、最も少ないのは六年度では大きい組の男、七年度では小さい組の男となつてゐる。組紙はどの年度でも甚だ少いが小さい組よりも大きい組の方が多く、織紙も同く小さい組よりも大きい組の方が多くなつてゐる。次ぎに切紙は六年度では小さい組よりも大きい組に多く七年度では其反對に小さい

組の方が多くなつてゐる。五年度でも小さい組の方が多い。最も多いのは六年度七年度ともに小さい組の女で、最も少ないのは六年度では小さい組の男七年度では大きい組の男となつてゐる。折紙は六年度では大きい組七年度では小さい組が多くなつてゐる。五年度では兩方同じである。厚紙は六年度も七年度も大きい組が多くなつてゐる。併し五年度では小さい組が多くなつてゐる。豆細工は六年度は大きい組、七年度は小さい組に多くなつてゐる。最後に粘土は五年度でも六年度でも又七年度でも小さい組に多くなつてゐる。此れを解り易く一つの表にして見るに左の如くである。

√は大きい組に多いもの△は小さい組に多いもの〓は兩方に同じものと云ふ印、數字は年度である。

組			年度	
大	中	小		
7	6	5	圖	画
√	△	√	ぬい	と
△	△	√	組	紙
√	√	√	織	紙
√	√	△	切	紙
△	√	〓	折	紙
√	√	△	厚	紙
△	√	√	工	豆細
△	△	△	粘	土
7	6	5		
組			小	

此れを見るに組によつて何が特に何の組に興味があるかは云へないが三ヶ年を通じては大きい組には組紙小さい組には粘土がそれ々に興味あるものとなつてゐる。圖畫厚紙豆細工は比較的多く大きい組に、其他は皆矢張り比較的に多く小さい組に興味があつたに云へるのみである。

尙次ぎに男女別にして大小二組を別々に一つの

表中數字は年度で大小は大きい組と小さい組、Vは男に多く△は女に多い事を示す。

男						圖畫	とりぬい	組紙	織紙	切紙	折紙	厚紙	工豆細	粘土
7		6		5										
小	大	小	大	小	大	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
△	△	△	△	▽	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	▽	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	▽	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
▽	△	△	△	▽	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
▽	▽	▽	▽	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
▽	▽	▽	▽	▽	▽	△	△	△	△	△	△	△	△	△
△	△	▽	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
小	大	小	大	小	大									
7		6		5										
女														

折紙も粘土も皆女の方に多くなつてゐる。

以上で極めて雑薄ではあるが統計的觀察は終つたのである。所で手工種目の中で切紙△ぬいぎりについては多少の説明を要するかと思ふので左に簡単に附言して置く、

切紙には指で切るもの△鋏で切るもの△あるがこれまで云ふた切紙△云ふのは鋏で切るものを云ふのである。

切紙の材料△なるべきものは折紙に用ふ普通の色紙である。此の色紙を幼兒は小さい手鋏を以つて自由に切るのである。別に切方は教へないと思ふまゝに切らせる。始めは一つ折りにして切つてゐるが、だん／＼二つ折り三つ折り四つ折り五つ折りなごにして切る。そして始めは切つたものが中々續かないで離ればなれになつてしまふ事があるがそれもだん／＼上手になつて續いたものが出来るやうになる。折りを廣げて續いた一つのものが出来た時には子供は大發見でもし

表にし何がぢちらに多いかを示して見るに即ち左表の如くである。(此れはさきに一應説明して置いたのであるが唯解り易い爲めに掲げて見ることにしたのである)。

此れによつて見る△圖畫△豆細工は三年間通じて大小ともに皆男の方に多く、切紙は三年間通じて大小ともに皆女の方に多くなつてゐる。男に比較的多いのは厚紙だけで其他にはなく、ぬいぎりも組紙も織紙も

たやうな大喜びで又他の紙を取つて切る。切紙は他のものは異つて上達するのが早い。そこに此の切紙の特徴を見るべき一つがある。それに折つて切つたものを開いて見た時自分ながらに驚くべき綺麗な形が出来てゐるのを見て子供は驚喜の感に打たれる。そこに又此の切紙の今一つの特徴を見るべきものがある。始めは鋏が直線的にのみ動くから出来上るものも角ばつたもののしか出来ないが後には曲線的に鋏が動くやうになり出来上るものも大人にも出来ないやうな綺麗な模様の形を切るやうになる。道具を使用して作るもので斯んな氣持よく出来るものは恐らく他にないであらう。時折に參觀に來た人が如何にも無心に、他見をしながらお隣の者さ何か別の事を談しながらすら／＼切つてゐる所を見て、そして又それが出来上がればそれを開いて見て如何にもうれしそうな面をして又他の紙を取つて切る、その有様を見て參觀者自身わざわざ紙を鋏を取つて切つて見るのであるが到底無心な幼児には及ばないことを知つて再び驚くのである。

此の切紙は既に統計的に見たやうに圖畫手工の内でも興味の多いもので特に女の子には最も喜ばれる手工である。それはこれが裝飾的であるからである。幼稚園の手工の一つとして無論從來切紙はあるのであるが、併し其れが教育的に果してどれだけ大きな價值のあるものであるかについては殆んど問題とされてゐないし又研究もされてゐない。併し統計的に見てこれは幼稚園の重要な手工の一つと見てよいと思ふ、故にこの切紙については今後大に研究を要すると思ふのである。

次にぬいざりであるが、此れは厚口の畫用紙で普通の大きさのものを四つ切りにしてそれに下繪を畫いて五ミリ置き位に針で穴をあけてあるのを與へるのである。幼兒は毛糸針に備へてある細口の毛糸長さ一尺五寸位のものを通して縫ふのである、始めは極めて易しいものをさせるのであるがだん／＼上手になつて可成りむづかしいものをするやうになる。始めは針に糸を通すこまやきの穴に針をもつて行つてよいが解らなくなるのもあるから多少は手をかけてやる必要もある。

がやがて何もかも自分獨りとするやうになる。針を持たせるに何さなく危険のやうにも思はれるが四年半にわたつてまだ一人も其針で怪我をしたことも泣いたこともないから割合に危険のないものである。此のぬいこりは一日で出来上らない事が多い。それで其未完成のものを自分で保存して次ぎの時にそれを出して仕残りの所をするに云ふ所に教育的に大きな價値の一つが認められるのである。他の多くのものは其場で其時に仕上るがぬいこりは然うでない、それで今日の仕事を明日もするに云ふ仕事に對する繼續的精神を養ふにはぬいこりは最もよい手工である。男女とも此れには可成り大なる興味をもつてゐる事を統計的に見たゞけでも幼稚園の手工として重要なものである事を知る事が出来るのであるが、更らに其教育的價値を研究するなら此れも亦幼稚園の手工として必ず問題とされなければならぬものであると思ふのである。

尤も當てはぬいこりに對して、これを幼稚園の手工とすることに對して反對の非難もあつたやうである。それは餘り細かしいことをさせるに眼に對し、又幼兒の心的發達に對して有害であるに云ふのが主なる理由であつたかと思つてゐる。同じ理由で他の手工、例へば刺紙、織紙、折紙等に對しても非難があつた。併しその非難に云ふのは劃一的教育の場合に於ける非難で自由主義教育の場合に於てはではない。自由主義教育に於ては如何なる場合でも幼兒に無理を仕向けることがない。常に幼兒の興味に従つて行はれて行く故幼兒のもつてゐる力以上の緻密なものとか理解し得ないやうな難事を強いるなと云ふやうなことはない。だから幼兒の心身の發達に害を與へるなと云ふやうな心配は絶對にないと思ふのである。

四　　むすび

以上で幼稚園の圖書及び手工についての統計的觀察は大體終つたやうである。この點に就いても決論は尙他の研究に俟ちたいと思ふ。此れは統計として目下の幼稚園に於ては餘り肝要なものではないかも知れない。併し此の種の統計は著者の狭い見聞では未だ他にあるを知らない、故に出来るだけ努力して整理もし又觀察もしたのであるが不行届の所は元より

多くあるに相違ない。それに四年間に於ける一年毎の統計で同じやうなものが四つもあるので説明も簡單に行かず従つてくさい云ふ非難も又免かれないであらう。それらの缺點は統計に不慣れなものとした仕事として寛恕をされるなら誠に幸甚である。

幼稚園の研究は最も遅れてゐるものゝ一つである、最近此の方面の著者も多少出て研究の扉が幾分か開かれつゝあるやうにも思はれる。併しまだ幼稚園の研究は他のものと比較して等閑にされてゐるやうに思はれる。尤も童謡とか遊戯などは最近著しい進歩をなしてゐる。又手工用材料なども可成り斬新なものが考案されてゐる。だから此れらの方面は相當開拓されてゐるのであるが、幼稚園教育そのものの研究が今後餘程進んで行かないとそれらの新しく考案されるものを充分利用することが出来ない。やゝこもすれば次ぎから次ぎへ考案される童謡遊戯や手工材料に幼稚園が押されて幼稚園の教育的本領を忘却してゐるやうな情態に陥り易いのである。今日は何づれの方面にも再検討を要する時代である。幼稚園教育に就いても其目的、其方法などについて精細な再検討を試みる必要があると思ふのである。此れは幼稚園教育に對する著者の希望で此の研究は勿論直接の關係はない。此の研究は僅かに幼稚園教育の一部、圖畫と手工に關するもので、それも極く一部分の統計的觀察に過ぎないものである。併し斯る研究は矢張り幼稚園教育全般に對する著者の希望が斯くなさしむるに至つたのであるから茲に全般に對する希望に述べ及んだからして全然無意味とは思はない。特に著者は幼稚園教育は出来るだけ自由主義でなければならぬと思つてゐる。故に其自由主義による結果を統計的に見て、更に幼稚園教育に於ける自由主義の必要なることの前提をなさしめるのである。元來幼稚園には自發的と云ふことが八釜敷く唱へられてゐるが、實際にはむづかしいことと見え、結局口では自發的と云ひながら、實際では大部分が干渉的であるのではないかと思はれるのである。

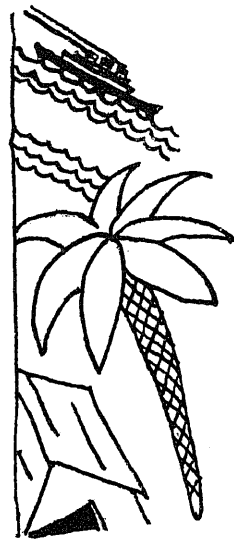
尙最後に一言手工について附言して此の稿を終ることにする。

手工はフレーベル主義の教育から云へば恩物に次ぐものであつて、手工の種々なる種目（フレーベルでは十種目になつてゐる）は総合的に大なる意味を有するものである。だから其方向から云へばこれらの手工を幼児の自由撰擇に任せないで、適當なる方法によつて適當にこれらを課して行くことに寧ろ教育價值の大なるものを認めなければならぬことになる。成る程理論的には然うも考へられないではないが實際には仲々の難事である。のみならずフレーベルの如く深く考慮され組み立てられた教育が果して幼稚園に適當したものであるや否やも甚だ疑問としなければならぬ。無論斯く云ふのは幼稚園の教育を輕んじて云ふのではなくもつゝ幼児の生活そのものに則した教育がなければならぬ云ふ考へから云ふのである。それで幼稚園の手工は幼児の自由撰擇に任せ課せられた仕事でなく自由の仕事としてなさしめ、仕事の結果も必ずしも規定のものでなく、幼児自身が見出す結果でよいと思ふのである。幼児が自由に或ることをなし、或る結果を見出すなら、それには或る規定の結果に到達した以上の教育的効果があるに相違ない。故に幼稚園に於ける手工は飽くまでも自由主義によらねばならないと思ふ次第である。（終り）

プナホの幼稚園

書く事にも馴れませず何等の専門的知識の無い私が、此の紙上に發表致しますこの烏滯がましさを大變御恥かしく思ふのですが、異つた國での幼稚園生活の経験が、又何等かの御參考にもなるかも知れないと思ひまして、自分の無能をも顧りみず筆を採る事に致しました。

一
昨年の夏私共夫妻は小學校四年の長女とお茶の水幼稚園の長男を伴つてホノル、へ参り半歳にも満たぬ短い滞在をしたのでございました。以下はその時道雄がしばらく籍を置きました幼稚園の有様を憶ひ出しながら綴つたもので



蠟山銀子

ございます。

皆様も既に御承知存じますが、ホノル、市は、太平洋上に浮ぶオアフ島と呼ばれる小さい島にありまして、ハワイ政廳の所在地として布哇八島の中最も繁華な土地でございます。

布哇群島は、主なるものを八島として其總面積を以つてさへ僅に我國の四國にも較べられる程度のものですが、其の地位の關係から相當重要な役割をもつて居ります。桑港へ二九一哩横濱へ三三九四哩、我郵船會社の優秀船の便を借りて約十日間を要します。島の分布は北緯十八度五

十四分より二二度五分に至り、西經百五十四度五十分より百六十度三十分に亙る赤道以北の熱帶地でございます。

氣候は熱帶地に在りながら貿易風やベーリング海峽より流れて此の島々を廻る寒潮に益されて年中溫暖と言はれて居ります。私共の着きました八月末は何十年來の暑さだ島の人々に騒がれて居りまして、さすが舗道に出ては其強烈な日光が眼に沁むばかりで、歩けば汗がたら／＼流れると言つた風でしたが、一度樹蔭に這入りますと、涼しい風が一度にそれを忘れさせて呉れましたし、陽が落ちて夜に入れば晝間の暑さはまるで無關係の様に思はれるのでした。

冬は此の地では最も良い季候とされて居ります。日本ならば戸外には雪や風を伴ふクリスマスの時でさへ、子供達はその晴木にオーガンデイーを用ひ、ワイキ、の濱邊では夏の盛んさはなくとも海水浴に興ずる事が出来ます。此の様な風ですから一年を通じてみての最高最低温度の差さへ二十度内外でして平均差は十度位と言へませう。一日の中でも、午前、午後の八時の温度は殆んど年中七十二三度を保ち、最低温度よりやゝ高いと言ふ程度ですから、大抵

季候の御想像はつく事と思ひます。

それですから夜は、夏も薄い毛布を必要としましたが、さて又、お正月でさへそれを一枚折りにした程度で充分でした。

兎に角雨季になれば、朝夕は軽い外套、スエター等も必要でしたが、年中うす物で通るので便利と言へば便利ですが又單調と言へば單調とも言はれませう。

人種は、西曆一七七八年一月英人キャプテン・ゼームス・クックのオアフ島發見に其の端を發して、現在ではポリネシア族、俗稱カナカミと呼ばれる布哇土人は極少數でアメリカその他の所謂白人種の外に日本、朝鮮、支那、比島人及びその雜種等世界の人種の展覽會場の觀があります。

日本人は、五十年前に九百名の官約移民を送つて以來、現今では、日系市民をも交ぜるに、全島人口約三十八萬の中、略々十五萬人を占めて、あらゆる意味から一勢力を以つて目される様になつて居ります。

二

道雄の通ひました幼稚園はブナホミと呼ばれる學校に屬し

て居りまして、極々最近に開設されたものでしたが、プナ
本校自身は一八四二年に、米國宣教師の子弟の爲めに開校
の運びに到つた、古い歴史ミ誇りミを持つ中等部までの聯
絡を同一構内に持つたものでして、アメリカの本土が東西
兩部の交通の不都合であつた時代には西部の良き家庭の子
女の多くが此處に學んださかきゝました。現在でも學生の
大部分はアメリカ人です。

Punahou School のプナホミは土語で泉ミ云ふ意味ださ
うで、廣大な構内の一隅にその語源をなす如何にも御伽話
にでもありさうな睡蓮のお池があります。小學校に向ひ合
つて芝生の庭ミそのお池を距てゝ幼稚園があります。

Rice Hall ^{ライスホール} ミ呼ばれるその建物の名は、多分他の建物
皆さうである様に、學校ミ因縁の深い人の名前を附して呼
ばれたものミ考へました。

小學校の入學が滿六歳から許されるアメリカの定めに従
へば、道雄は幼稚園でなく小學校に入れる筈なのでござい
ましたが、言葉も解りませんし、日本でも未だ幼稚園でし
たので、僅かの滞在を愉快にさせてやり度いミの親心から

やつぱり幼稚園に入れる事にしました。

學期は二學期制で新學期が九月である事は八月末に着い
た私共ミしては誠に好都合でした。

九月四日の始まりの日に、道雄を伴つて校長のシェー
ド博士の紹介狀をもつて幼稚園に向きまして入園の希望
を述べました。主事の差出された一枚の小さい紙に、兩親
の姓名、職業、住居、園兒の年齢、名前等を書き入れたゞ
けで入園の手續は終りました。その時主事は朝は八時に始
まる事、十一時半から十二時迄にお迎へに來ればよい事。
ミルクミトメト汁ミはごちらを與へたらよいか言ふ事等
を尋ねられました。そして仕事着ミ休息の時間の爲めの小
さい枕ミ毛布ミマットを自參する様に注意して下さいまし
た。此の子供達のマットが全部メード・イン・ジャバンの花
蔭であつた事は面白い事ミ感じました。

主事のミス・アレキザンダーは、恰度私達の歸る一週間程
前にミセス・スミスミ改姓されましたが、一見理智に勝つ
た方の様で又極物靜かなまだお若い先生でした。——ベビ
ークラスの先生達ミは餘りおなじみになりませんでしたの

で此處に省きますが、——此の他に思ひ切つて背の高いまだ學生氣の拔けない様なミス・ボーチミ、カルフォルニアの大學を今年出て新學期から來られたばかりの、優しさのシムボルの様なミス・カミングが道雄達の組の先生でした。道雄の言に従へば此の他に大抵三四人の敎生の先生(?)が御仲間に加つて下さるさうです。

大きい組と小さい組とたつた二つきりしかない此の幼稚園は廣い五、六段の段々を登つて玄關に面した廣間に接して四つばかりの部屋に分かれて居ります。突當りがベビークラスで、左手がお遊戲室、右手は大きい組の部屋ですが、小さい組と大きい組との中間に、枕や毛布等の爲めに銘々の戸棚が造りつけられて居り、窓に面して先生の事務用の机が据えられて、その左手の壁には子供達のミルク等の爲めに用意された大きな電氣冷蔵庫が置かれて居りました。

大きい組は鉤手形の明るい清潔な部屋を持つて居りました。お茶ノ水のお遊戲室に較べて小さくなかつた様に記憶して居ます。人數は親の轉勤等の爲めに時々出入りがあり

ますが約二十四五人の様でした。日本人は二組を通じて道雄が一人で、他は殆んどアメリカ人でした。故國の幼稚園では、先づ大きい部類に屬する道雄の身體は一つ年下のアメリカ人のそれ等の子供に交つて恰度同じ位でした。

部屋のはじめの部分の入口の壁の所には入口を二つ持つた外套やオヴァーオール掛けの場所があつて子供らしい趣嗜で各自の名前が貼りつけられて居ります。

ホノル、では、多分年中暑い事から來た衛生的考慮も加つたものだと思ふのですが、決して帽子をかぶりません。帽子は只婦人にのみ残された習慣となつて居ります。小さい子供は又靴も殆んど用ひません。道が完備し、到る所芝をもつて蔽れた土地でもあり、自動車の發達してゐる事等が原因の様に考へられます。此の學校の幼稚園、小學校の子供は殆んど云つてよい程、母親の動かす自動車で送られて迎へられます。學校のお庭は全部芝生なのですし、お部屋の出入りに堅い石段で轉がらない様に、特別の理由のない限り子供は皆ハダシになります。そんなわけでたまたま靴を穿いて來た子供はぬいだ靴を自分の置き場に揃へま

す。

八人位で取り圍める四角い小さい机が四つこ、お椅子が適當に配置されて、其の上には毎朝校庭から蒐められた先生のお心盡しのお花が花瓶に生けられて居りました。土地の自慢のハイビスカスの花は、二百餘種にも及ぶさかきゝますが如何にも子供のお部屋を飾るに相應しいものでした。たつた一日咲いて、もうくも終る此の花の外にコスモスや、日本の桔梗を見る事もありました。

先生から御本を讀んで頂く時には十人位で書棚の前の丸テーブルを取り圍みます。女の子達の大事なおまゝご遊びのお人形や、其の家具類、お臺所用品、食器等、家庭で母の用ひてゐるあらゆる種類のものが、小さいながら實用にたつ品々である事は眼を惹きました。ベットは多分子供達の製作品でせう。シングルベットが二つ、衝立を壁に見たてゝちゃんこ位置よく配置されてゐるのも面白いと思ひました。

お家や、飛行機や、お船に組立てられる間餘の大きな積木は、生地のみゝの木の色でしたが、随分豊富に備へられ

て居り、それは皆大きさに従つて分類して納められる棚をしつらへてありました。

鉤手に従つて左に折れるこ右手はお庭に通じる出入口ミなつて居り、その續きの壁には幾段にもなつた棚には、子供の製作品や、材料の木材等があり、一番奥の窓に近く、のこぎり、ハンマーその他の大工道具が種類も澤山に備へられて居りました。その部屋の中央には、繪を描く時、粘土をいじる時、大工をする時の爲めにそれゝの臺がありました。大工用の臺は、子供が鋸を使ふにも危くない様に、材木の厚さ大きさに従つて振で自由に加減の出来る支へ等が取りつけられて、穴を穿けるにも釘をうつにも便利になつて居りました。クレヨンを使はない繪の爲めには、それ相應の畫架が二つ三つこ、牛乳瓶利用——瓶が比較的丸く低く口が大きい——の容器に水溶きのされた美しい色の繪具や、ブラッシュが、防水紙の貼られた低い臺にお行儀よく揃へられて居りました。この他に流し、手洗、瓦斯の設備もあり、窓窓の中間の壁には子供の背丈の薄緑色の塗板が造りつけになつて居りました。

部屋に懸けられた額はよく取り換へられました。又道雄の描いた、ダイヤモンド丘に椰子樹の背景をもつたヨットの繪——道雄のホノル、の第一印象でもあると見えてよく此の題材を選びました——等もこの壁を飾りました。

先生の注意深い指導で、ヘルプミを得て自由にやれる大工のお仕事は、道雄にまつてはホノル、の四ヶ月の幼稚園生活に於いての、最も興味と満足ミを味はせて呉れたものゝ様に見受けられました。クリスマスには私共両親は生れて始めて、子供が心を籠めての製作品を贈られました。

赤い紙に美しい紐やシーリングを持つたその包みは、from Michio「ミチヲヨリ」に書いたカードを附けて、クリスマスツリーの下に置かれました。當日でなければ開けられないその包を前にして、家族達は興味ある「あてつくら」を致しました。しかし「パバのは御本を置くブック・スタンド、ママのはお帽子を掛けるハット・スタンド」に道雄は待ちきれないでそつち私の耳に口を寄せるのでした。

建物の後方のお庭は丘を採り入れた芝生で、續きには村長先生のお家が樹の葉がぐれに見られます。小さい組の爲

めには特別にその一部を金網の垣をもつて結びめぐらしてありました。コンクリート造りの小さいその中のお池は、やつち子供の膝にも満たない水を湛えてゐましたが、よく子供がサン・スーツだけになつて跳ねまはつて居りました。お砂場、ブランコ、ジャングル——ワク登り——等の他に三輪車や手押の運搬車、大きな積木はありましたが、二臺らしいものゝ見當らないのはさうした事なのでせう。尤も子供達は丘の傾斜を利用して元氣に這る事を知つて居りました。大きな丈夫な樹の枝にブラさげられた、自動車の古タイヤのブランコは、普通のものより子供達には人氣がある様でした。

大人でも這入る事の出来る大きな木の空箱は、積木と共同で子供達のよきお家とも船ともなりました。子供達が最後の外のお遊びを止めてお部屋に這入る時は廂の下に積木の小屋に二三人の男の子はその屋根にあたる蓋を開けて這入り、三人も四人もかゝつて一つづゝ運んで来る積木を受けまつて納めました。

二十人餘りの組は、大體二つに分かれて部屋の中にお外

と交代になつて居るのですが九時半になりますと、其の日のお當番の二三人の子供は、先生の出して下さるミルクや、トメト汁をテーブルに運び、――その時はテーブルは

一つに寄せられて大きくまはりを取り圍める様になつて居ります――それから、ナプキンペーパーの上に特別に選ばれたクラッカーとスッローを配置します。その用意が済むとお部屋の内外へその旨を知らせに行きます。遊んで居た子供達は中に這入る行列をつくつて御不淨へ行きます。これには例外は許されません。お手を洗つて前もつて定つてゐるミルクやトメト汁のめい／＼のお席に着きます。勿論先生も御仲間に這入つて下さるのです。空になつた瓶は各自お水で簡単に洗つて定め場所へ持つて行きます。蠟燭をたてたお誕生日のお菓子が贈られた日には、此の時間にクラッカーの代りに、當の子供から皆にわけられてテーブルを賑はします。此の後でマットと、枕を持つてお遊戯室に休みに行きます。三十分餘りの此の時間には、先生の弾いて下さるピアノの靜かな曲やレコードがきかされてひっそり静まるのですが、中には腕白さんが居て自

分のマットからお隣のマットへ轉び込んで騒ぐ事も珍らしくないので、餘り度が過ぎるゝほんゝの休養室へ一人で寝かされて了ふのださうです。

お遊戯は二三度見たゞけでしたが、日本の幼稚園で、皆でお行儀よく輪になつてやるのを幼稚園のお遊戯と思つてゐた私は觀念を換へねばなりませんでした。先生がボリース・マン（交通巡査）を被仰るゝ、一人の子供が部屋の中央に進み出て、残りの者達はそれ／＼四方に分かれて中央に向つてゴチャ／＼とをかたまりました。勢のよいピアノのマーチに連れて、中のお巡さんは兩手を動かして、適當にゴーストップの合圖をします。通行人である他の子供は、それに従つて行つたり來たりするゝ云ふやり方です。又時／＼して、動物園遊びも致します。或る子供は、兩手を前方へ低く捻じ合せて突き出しながら、身體を丸めて屈み込んだ姿態でゆる／＼その手を左右に振つて歩きながら象になります。此の調子で獅子も、兎も、カンガルーも出来るのです。兎に角子供達が大真面目でそのものになり切つた様は可愛らしくも、たのもしものゝ感じました。所謂秩序には缺

けたものがあるかもしれませんが、個性を伸ばし創造的精神を育てられる上に影響がある様に思ひました。繪を描く時にもそうしたものを屢々感じました。

或る日お庭のお散歩の時に道雄が木ノ葉の陰に Caterpillar (蝶類の幼蟲)を見つけます、早速皆でそれをもつて探し出して來ました。先生はセロファンのお家を作つて、蟲を大事に育ふ事を指導されました。黄と黒の強烈な横縞のその芋蟲は、私にはどうしても氣味の悪いものではありませんでしたが、先生は私に盛んにチャーミング云ふ言葉で見せて下さるのでした。その紙のお家の置かれた机の上の壁には、その幼蟲が蛹となり、蝶となる迄の圖が切り抜かれて貼られました。やがて蛹になつたその蟲が面白い形で、葉っぱの裏に細い絲をひいてぶらさがつた時、子供達はその繪の示す眞實性と聯絡ミを始めて體得する事が出來たでせう。

時々子供達は先生やお母様方の自動車を三四臺連れなれて、校外に出掛ける事がありました。港にお船を見學に、飛行場で動かない飛行機に乘せて頂いたりしてよろこんで

居りました。

此の幼稚園の生活に毎朝先生の子供の検査のある事を書き忘れてはならないと思ひます。ミス・カミングが、這入つて來る一人々々の子供に喉と手首の運動の様子ミを調べられるのです。それは病氣を未然に防がんだめのものであつたでせう。

體重その他の報告は一ヶ月に一度づゝありまして、餘り體重が一所に停頓してゐる事に注意を呼び醒まされ等します。齒の検査は特別やかましい様でした。さう云へばアメリカの子供達は何ミ云ふ美しい齒竝を持つてゐるのでせう。

言葉も知らない道雄が、多くの良き師とお友達に圍まれて、心から愉快な毎日を送る事が出來ました事はやがて成長するに従つて楽しい憶出さしてのみでない別の記憶をも持つであらう事を信じて居ります。 (二月二十五日)

本文著者は昨年アメリカの大學に招聘され講演に行つて居られた東大教授蠟山政道氏夫人であります。

衛生上より觀たる

「幼稚園の効果」

虛弱兒童健康相談所長 醫學博士

岡 田 道 一

幼稚園へ幼兒を通はせることは、幼兒に對して精神的に又身體的にどんな効果があるだらうか？、ミ云ふ質問を受けることが度々あります。それで幼稚園教育ミ云ふものの、効果はさう云ふ點にあるかミ云ふことを簡単に述べて見たいと思ふのです。

第一に幼稚園に幼兒を通はせることには全然何等の効果もない——ミ否定する論者もないことはありません。然し從來の多くの人々の經驗ミ研究ミによつて、幼稚園教育には充分の効果があることは既に確定された事實なのであります。中には幼兒時代の教育の當否は、精神的にも亦肉體的にもその人の一生を支配する程の重要性を有して居る

ミ斷言して居る者もある位であります。

實際に於ては、然し幼稚園教育の効果を數量的に表すミ云ふことは非常に困難でありますので、隨つて之の效果に對して疑問を抱かれる人々も多いのであります。それ故何ミかして幼稚園教育の効果を數量的に測定し、之を指示しやうミ試みたことが屢々ありますが、然し十分に信用するに足りるものはないやうであります。

幼稚園に於ける精神的の教育効果を認めることは比較的に簡單ではないか、即ち家庭から直ちに小學校に入學した幼兒ミ、幼稚園から小學校へ入學した幼兒ミの、諸學科に於ける成績を比較して見たら一目瞭然ではないか、ミ簡單

に考へる人もあるでせう。然し現在でもまだ家庭から入つた幼児ミ、幼稚園から入つた幼児ミの成績を比較するべき正確な材料は甚だ貧弱であります。之は幼稚園修了児が數に於て非常に僅少であるばかりでなく、幼稚園に於ける教育には現在も尙一定の方針がなく、各個により非常に相違して居る點から見て、誠に止むを得ない次第であります。それ故に此の小學校に學科成績によつて幼稚園教育の効果を判定しやうとするには、非常な危険が伴ふのみでなく、時としては全然誤つた結果に到達するかも知れないのであります。

次に身體的の教育效果の比較ミ云ふことも亦非常に困難を伴つて居ります。ここは明らかでありまして、家庭から直接小學校に入學した幼児ミ、幼稚園教育を経験した幼児ミの、小學校に於ける身長、體重、胸圍の發達の割合を測定したり、又各種の疾病に罹る割合ミか、體格検査の概評の比較ミ云ふ様な方法を以て、之を表示しやうとした試みを企てた人もありますが、身體的の發達に對する効果を僅か一年や二年の、しかも一日三時間か四時間の幼稚園教育の

有無によつて判定しやうミ云ふことは、寧ろ無謀ミ云ふべきであつて、之は幼児の出生後から小學校に入學する迄の家庭に於ける基礎的注意の有無によつて、竝に小學校に於ける衛生的の考慮の如何によつて大いに影響されることであつて、幼稚園教育の效果は、現在に於いては、此の點に對してはほんの僅かばかりの關係しか持つて居ないのであります。然し本來から云へば、此の身體的發達の基礎事業としての幼稚園教育の效果ミ云ふことは、最も重要視すべき點であつて、幼稚園教育がもつてもつミ此の點に眼覺め、此の點に力を入れたならば、その效果の大いに見えるべきものがあるであらふ、ミ云ふ事は斷言し得られるのであります。然し現在の幼稚園教育は此の點に於て、可成り不満足なものであることは云ふ迄ありません。

現在に於ては幼稚園の効果を、智的發達の點にのみ求めやうとする人々が、非常に多い様であります。之は普通幼稚園の成績考查はさう云ふ風にするか、幼稚園の教授要目はどんなことか、幼稚園ではどんな試験をするか——ミ云ふ様な質問を受けることが非常に多い事から見ても判りま

す。また幼稚園へ行くこませるから困るこか、幼稚園へ行く物を憶えるからよいこか云ふ人の澤山あるのを見ても判ります。

然し乍ら小學校でも今日に於ては、既に知育一點張りから教育効果を判定するこは甚だ妥當を缺くものであるこ云はれて居るのでありまして、まして幼稚園の効果を知識收得こ云ふ點から判斷するこは無謀こ云ふより他ありません。

精神的の方面からだけ云つても、幼稚園教育の眞髓はいろ／＼の知識を注入したり、唱歌や遊戲を數多く數へたり、折紙や手工を習はせるこ云ふ様な點に存するものではなく、幼稚園教育では精神發達の基礎を涵養するこ云ふこゝが重要點なのであつて、感覺器官を練磨して感覺、知覺を確實にし、觀察力を養成し、經驗を豊富にするこに努力すべきであつて、文字の知識や、死んだ書物の知識を多く授けるこは問題外なのであります。例へば折紙細工をさせるにしても、その方法をよく記憶したごうかこ云ふ點に目的が存在するのではなく、その動作、作業によつて養

成された能力、經過に對して價値を認めるものであります。

更に身體的の方面に對する基礎の確立こ云ふ事は、以上の精神的の方面よりも、より以上に重要視すべき幼稚園教育本來の使命こ云ふべきでありまして、單に遊戲や運動をさせるこ云ばかりでなく、睡眠、休息、榮養、こ云ふ様なあらゆる衛生的の方面に注意を拂ひ、之を善導し、良い習慣を確立し、身體の圓滿な發達を完からしめるやう、家庭に對し、又幼兒に對し、充分な教導を行ふここそ、幼稚園教育の目的なのであります。

處が此の點から見ると現在の多くの幼稚園教育が兎角教へるこに力を注いで、身體の發達を促進し、健康を確立するこを疎かにする傾きを有して居て、身體的教育を度外視して居るこ云つては餘りに酷かも知れないが、却つて輕視して居る處が多い様に見受けられるのは誠に心外であつて、當事者自らがその根本的價値を顛倒視して居る様では、效果の薄いこは勿論、一般の人々に對してその効果を認識させるこは難いのは云ふ迄もない事である。

幼稚園に行く様になつて身體が著しく丈夫になつた。幼

兒の生活が規則正しくなつた。食物を選び好み若くは偏食しない様になつた。食慾も進み、元氣も出て、快活になつた。よく遊ぶやうになつた。よく眠るやうになつた。身體を清潔にする習慣がついた。風邪をひかないやうになつた。お腹をこわさない様になつた——等云ふ様に、幼兒の生活方面に充分な効果が認められてこそ、幼稚園教育の眞の効果が擧つた云ふべきであります。

幼稚園は幼兒の樂園であり、幼兒の遊び場所であり、幼兒同志の楽しい天國でありますから、幼兒が喜び勇んで幼稚園に行く様でなくては幼稚園教育の効果は擧らないのであります。此の點のみから云つても、現在の幼稚園の設備が、完全から程遠いものであることは多くの人の認めて居る處であります。然し始めから物に對して萬全を求めることは不可能でありますから、一步一步で現在の設備を改善して行くより他に致し方はありますまい。特に身體的の發達を助長するこゝを本來の目的とする幼稚園としては、衛生的の設備を完全にするこゝに更に一層の努力を拂ふと共に、當事者も亦此の點に特に意を用ひてこそ、その効果

は一層著しくなるのであります。

家庭は本來子供本位であるこゝが望ましいのですけれど、實際にはそう思つても生活上の爲めに仲々そう行かないもので、つい大人本位になり勝ちな爲め、子供の生活が犠牲にされる場合の多いものです。それ故一日中に數時間だけでも子供本位の楽しい遊び場所が得られたら、子供はそんなに楽しく仲々精神的にも亦身體的にも良い影響を蒙るかも知れない。危険がなく、安全で、精神的にも身體的にも不良な影響を及ぼすこゝのない子供の樂園——それが即ち幼稚園であります。そんな子供でも四五歳になれば遊び仲間を求めて幼稚園に行きたがるもので、幼稚園の効果は子供の遊び場所であるこゝで盡きて居る云つてもよい位である。幼兒にこつては遊んで居る事が彼等の生活の全體であり、其の遊んで居る間に彼等の精神も身體も次第に發達するものでありますから、幼稚園が子供の楽しい遊び場所であるこゝは、即ち子供等の精神及び身體の發達により影響を與へずにはおかenないものであります。

世の中には、此の兒はませて居るから幼稚園に入れない

——云ふ人がありますが、之は實に間違つた考へで、子供

がませて居る云ふ事は、子供が子供らしくなく大人びて居ることを意味するなら、それは家庭で子供が大人を相手にして遊び、大人の生活をそのまゝにまねて居るに過ぎないのであつて、こんな子供こそ幼稚園に通はせて、本當の子供の世界に浸り子供らしく發達する様に心掛けなければならないのである。又此の兒はこんな癖があるから幼稚園に入れる可愛想だ云ふ親があるが、これは子供を既に固定した傾向習慣を持つものを見做した誤解であつて、元來子供の性質習慣は決して固定したものでなく、段々に變化する可能性のあるものである以上、子供を幼稚園に入れる可否は論ずる迄もないのである。

凡ての子供は成るべく幼稚園に入れる必要がある。子供の樂園である幼稚園は子供の精神的並に身體的發達に對して必ず良い影響を與へるものであつて、例へその結果が數量的に測定されるものでないとしても、後來の發達を助長し、完全に圓滿な發達を遂げしめる上に於て、充分な效果を有して居る事は、既に多くの經驗的研究に依つて明

らかにされて居る。

唯附近に適當な幼稚園がないとか、幼稚園に通はせる事情のない場合は止むを得ない。但し幼稚園は決して家庭教育の代りでもなく又小學校の準備教育でもないから、幼稚園教育の効果を數量的に過大視することは慎むべきであるけれど、幼稚園へ通はしても文字一つ憶へないなど云つて幼稚園教育を輕視することは非常な誤解であることを明らかに認識して欲しい。そして現在の幼稚園當事者もその效果の身體的であるべき本來の目的を理解し、その設備の方針に於て此の方面への影響をもつて重大に考察することを望んで止まない次第である。

小兒科・整形外科

虛弱兒童健康相談

醫學博士 岡田 道一

午前 豐島區長崎仲町一ノ二七九〇
午後 京橋區銀座西六ノ二

大 阪 東 京
東洋圖書株式會社
東京市神田區神保町一丁目
振替東京一〇三〇七番

〔書頁の備必須必〕

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よしと先生 共著
附屬幼稚園主事 保母 洋綴天金上製
菊判四八〇頁
定價三圓八十錢

本日幼稚園史

〔時色〕
一、二十年苦心の結晶漸く完成す 大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す。
二、草稿千餘枚縮繪數百整理成る 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
三、日本幼稚園史として比擬なし 歷代 皇后陛下行啓の榮を得し我が囃幼稚園本山の大記念塔。

大好評 東京女子高等 前附屬幼稚園主事 堀七藏先生著
師範學校教授 現附屬小學校主事 價四六判四一六頁美本
二圓八十錢 送十六錢

幼稚園保育の諸問題

一、幼稚園保育上の重要問題の實際的解決指針
二、小學校との連絡問題に就ての詳述は大特色
三、理論的見地に立ち保育實際に理論付けらる
(一)理論(二)實際(三)小學校との連絡問題につき詳述されし權威書。
前幼稚園主事たりし先生が現附小主事たる地位より懇説し盡さる。
明晰なる理論を以て保育實際に理論付け且進むべき方向を明示す。

東京 大阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目 振替東京一〇三七番
大阪市南區安堂寺町一丁目 振替大阪三九五六番

兒童心理學文獻抄 五

牛 島 義 友

幼兒の運動機能の發達

四 最初の二ケ年間

五十糎の身長ミ三斤の體重を備へて此の世に現れて來た嬰兒のその後の發達は兩親の歡喜ミ心勞の對象である。母親を見別け出したり、這ひ初めたり、片言を云ひ初める事は如何に親の愛情を強め將來に對する希望を高めるものであらうか。併しその生育の合間／＼に突然に現れて來る體の變化、親の不圖した不注意に基く胃腸の病氣、風邪ミ云つたものは親の心配を極度に高める。併し又かう云ふ疾病以外に吾子が他の子供に較べて大人し過ぎたり、物を云ひ始めるのが遅れたり、何時までも這ひ歩いてゐたりする

ミ、子供の發達が遅れてゐるのではないかミ危惧し初める。果して吾子は如何程の體重を持ち、何時頃から歩行し始め、物を言ひ始めれば普通の發育ミ云へるのであらうか。

先づ生れたばかりの新生兒の健康診斷の參考迄に標準の値を述べれば、

	男	女
身長	四九・四糎	四八・五
胸圍	三一・八二糎	三一・六
體重	三〇・六〇瓦	二九五〇
呼吸	三五―六〇(一分間に於ける腹部呼吸)	
脈搏	一二〇―一五〇(一分間)	
體溫	三六・八―三七・二度	

即ち睡眠時間の變化は一回の睡眠時間の繼續時間を示す
 次の如くなる。睡眠時間は年と共に減するが、繼續時間
 は増加して来る。即ち

初生兒 1 日之 睡眠時 間	繼續睡 眠時間
時分	時分
19:12	3:40
15:30	3:41
14:24	4:42
13:22	6:13
14:43	6:1
11:41	5:12
12:46	5:54
12:6	9:10
13:18	8:40
12:47	9:30
10:52	8:
12:24	10:0
12:18	9:29

(Bühler Ch.: Soziologische und Psychologische

即ち新生児は一日の六分の五位寢て居るが而もぐつすり寢續ける譯ではなく、三時間半位經つて目を醒し一運動するに又寢込む。之は胎兒期に於ける生活の延長である爲である。晝間は夜よりも睡眠と覺醒の交代が激しい。此の状態の子供が滿一ケ年も經つた頃となるに一日の中の半分丈寢て、それも大部分は夜間に睡眠する丈で晝間は起きて居る。此の起きてゐる時に爲す行動の中先づ運動的方面に就き少し詳しく述べる。最近はかゝる幼兒の行動に關する研究が非常に發達し、前のオーストリアの研究と共にアメリカ

カの兒童研究は非常に進歩してゐる。一例としてシャーレー女史の研究を述べる。

最初の二ケ年 M. M. Shirley: The first two years a study of 25 babies Vol I. 1931

女史はミネソタ大學の兒童愛護研究所の人で二十五名の嬰兒に就き二ケ年間繼續的に觀察した。即ち最初の二週間は生れた病院で觀察しその後は日を定めて家庭を訪問し研究した。最初は二十七名の子供が居たが途中病氣したり移住したりして一ケ年間完全に觀察された者二十四名、二ケ年間完全に觀察された者十六名になつてゐる。かゝる觀察に理解ある家庭は中産階級で専門的職業社會社員の家が主であつた。研究した點は、人體測定、健康狀態、運動的機能の發達、感覺の發達、言語、興味、性格等の發達であつて此の第一卷に於ては運動機能の發達のみが精しく述べられてゐる。身體を移動させて行く運動作用は大體三つの段階に別ける事が出来る。第一は匍匐、第二は起上り、第三は歩行。さて腹這に至る迄でも色々な段階がある、例へば嬰兒を腹這いに寝せても三週間の位の子は顎を持ち上げる

丈であるが、手で支へて胸を上げるには九週間の位かゝる。膝を動かして泳ぐ様な形をしたり、體を廻轉させたり愈ゝ前に這つて行く此前に先づ後すざりをやり始める。又立つにしても初めは床に坐らせても直ぐ轉ぶが終に坐れる様になり、机、椅子によりかゝつて立ち、終には一人で立つ様になる。歩く場合でも同じである。初めは歩かさうこしても爪先きで立つて足踏みする丈だが、次にお出で／＼するこそつちに歩いて行き、その中に一人で立派に歩ける様になる。かゝる各段階の平均の週を示すこ次の如くなる。

匍匐

顎を上げる

三週目

胸を持ち上げる

九週目

膝で泳ぐ形

二十五週目

體を向き變へる

二十九週目

體を前後に揺り動かす

三十七週目

後すざりする

三十九・五週目

腹這ふ

四四・五週目

立上る事

起上らうと努力す

十五週目

人の膝上で坐る

十八・五週目

一人で一瞬間坐る

二十五週目

一分間一人で坐る

三十一週目

家具に摺まつて立つて居る

四十二週目

家具に摺つて立たんとする

四十七週目

一人で立つ

六十二週目

歩行

足踏みの時代

十三週目

招けばつかまり乍ら歩く

四十五週目

一人で歩く

六十四週目

一人で立つには六十二週間かゝり一人で歩けるには六十四週間経たねばならない。併し歩けるに云つても元より大人の如くスタノ／＼歩ける譯ではなくアンヨは上手式に練習をしなければならぬ。此の歩き方を調べて見ても面白いものである。之を研究するには足跡法といふがある。簡單にやるには子供の足の裏に墨を塗つて白紙の上を歩かせてもよいが、もつミ丁寧にするには足の裏にアマニ油を塗り艶紙の上を歩かせ後で煤をその上に塗るに油の所丈につき、他は地のまゝ残る。かう云ふ方法で足跡を調べて見る

こ先づ初めの中に足の裏全部が付かず爪先丈がついて居る。歩み歩みの間の長さは次第に増すが、歩み歩みの幅はある階段の所までは廣くなるがそれから先は狭くなり右に左足が接近して来る。又初めの中は左右の足が平行してゐるのでなく、外又は内側に開いてゐる、而もその開き工合は初めは不規則であるが後には規則的になる。即ち小さい時の歩き方は外股で幅廣くヨチ／＼歩いてゐたのが後に足を揃へてズン／＼歩いて行く譯である。

日本では久保良英氏が自分の子供に就て詳しく觀察した記録がある。之は容易に手に入る書物であるから一讀をおすすめする。

(久保良英、一幼児の生後二ケ年間の行動、兒童研究所紀要第十一卷)

此の研究は手足の行動の發達、感官の發達、感情及び情緒、遊戲、模倣、記憶と想像、智能検査、に就て詳細に敘述してあるが、運動に關した點丈を見れば氏は運動を自動的、反射的、本能的、觀念的の四種に別ち、外界よりの刺激なしに爲す自動的な運動は三日目に乳を飲ました時に強

く痙攣的に手を動かしたし、生後十一日目に入浴中蹴さばす位足をぐいぐい伸した。それまでは産婆が足を伸してやれば伸す程度であつた。反射運動は五日目に手を開かれる事に對し強く反抗した。本能運動としてはまづ何かを掴まんとするのであるが百五十日目にその傾向がやつこ現はれ、二百二十五日目にガラ／＼を示した所、それを取らうとして手を出した。ビューラー・ヘッツェルの幼兒検査(此の事は後日詳細に述べるが)の四ヶ月の検査の所にガラガラを握らす検査がある。即ち子供にガラ／＼を渡した時に直ぐに掴んで落さなければ合格。觀念運動としては物を投げる運動等から初まるが球等を持たせチャイなさいと命じても中々行はず有意的に行はうとしても却つて掴んでしまふ。併し四百十二日目頃から正しく手から離す様になつてゐる。その他の問題は折を見て紹介する事にする。

尚序でに身體運動の發達狀態を診斷する事が出来る爲に先のビューラー・ヘッツェルの發達検査の中の之に關係した問題を紹介しよう。

Ch. Bühler u. H. Hetzer: Kleinkindertest

一ヶ月兒

○妨害的接觸を避ける運動。

○厚紙を子供の顔の上に置かれた時に反應する。

○腹這の姿勢で頭を上げる。

二ヶ月兒

○子供が掩布で掩はれた時不定の全體的反應をする事。

○體を起した場合に頭を眞直ぐに保つ事。

三ヶ月兒

○ガラ／＼を鳴らした時腹這ひになつてゐた子供が頭を上げればよろしい。

○腹這ひになつてゐて頭を上げる。

○試験的運動

四ヶ月兒

○腹這ひの姿勢で動いた物を眼で追ふ事。

○腹這ひの姿勢で頭と肩を上げる事。

○腹這ひの姿勢で手足を動かす事。

五ヶ月兒

○觸れた物を掴む。

○見た物に腕をさし伸す。

○掩布で妨げられた時に方向のある運動をする事。

○掌丈で上半身を支へる。

○仰向けの姿勢で支へられた際に頭と肩を持ち上げる事。

六ヶ月児、

○眺めた物を掴む事。

○仰向の姿勢で邪覺になる掩布を取り除く。

○仰向けの状態で頭と肩を持ち上げる。

○助けられて起き上る。

七ヶ月児、

○机の角を掴む事。

○光を掴まんとする。

○支へられて坐り乍ら、物の方に身を振る。

○腹這ひの姿勢で邪覺になる掩布より自由になる。

○支へられて坐る。

○仰向けの状態から横向きになる。

八ヶ月児、

○寢臺の柵の間から腕を伸して、外の玩具に触れる。

○支へられて坐り乍ら邪覺になる掩布を取り除く。

○鼻をかませられる時に大人の手を取り除かんとする。

○しつかりと物を掴み乍ら坐つた姿勢を保つ。

○自ら身體を振つて場所を移す。

十ヶ月児、

○一人で坐つてゐて二つの玩具を掴む事。

○一人で坐つてゐて掩布を取り去る。

○一人で坐る。

○這ふ。

十二ヶ月児、

○坐る爲に身を起す。

○支へられて立つ。

尙此以上の年齢の者の爲にまだあるが今回は以下省略する。

幼稚園兒の健康教育

醫學博士 野 津 謙

毎年行はるゝ徴兵適齡者の身體検査に於て、その成績甲及び乙を合格、丙及び丁を不合格として、各府縣別に之を比較するに、東京市を含む東京府及び大阪市を含む大阪府が最も悪い検査成績を示してゐる。之は明らかに、都會の人々の體格が田舎の人々に劣る事を意味してゐる。都會の子供と田舎の子供とを比較して見ても、同様に、前者が後者に劣る様に考へられてゐる。都會は田舎に比し、交通が發達して、従つて運動不足になりがちであり、市街は騒騒しくて子供達は神經質になり、食事としては、加工した物が多く食膳に供せられる様になつてくる。環境だけを比較しても、都會人の健康状態は、田舎人に比して悪いわけである。即ち、文明が進めば進む程、國民の健康状態は惡化してくるであらう。然も、日本の文明は、日進月歩、

剩へ、農民は競つて、都會にあこがれて集り來る傾向を示してゐる。此時期に當つて、國民の健康に就て熟慮しなかつたならば、日本の前途は憂ふべきものである。文明が健康を害ふものとするれば、文明は呪ふべきものである。然しながら、文明の發達は自然の勢で、たゞ我々が之を呪つた處で停止させる事は出来ない。茲に於て我々は、國民の保健並びに健康増進に就て特別の注意を拂ふ必要に迫られる。

そのためには、之迄病人を治療する事に主力を注がれた醫師の仕事は、もつともつと、豫防醫學、即ち如何にしたら病人を作らない様に出来るかといふ問題に向けられなければならない。それと共に、國民一般は、もう少し健康に關する常識を持つ必要がある。そのために、小學校、及び幼

幼稚園児童より、健康に關する教育を開始する事が考へられなければならない。小學校義務教育の目的の一として身體の強健に留意するといふ事は唱へられてゐるけれども、健康教育としての一つの系統をたて、之を實際的に行つたならば、もつゝ實績を擧げ得るゝ私は信ずる。その小學校に於ける健康教育の前提として幼稚園児に對しては、如何にすべきか、之が私が以下説明せんとする事なるのである。

國民の健康教育の目標は個人々々の健康、社會全體として健康にある。個人の健康に就ては、我國に於ても古來より唱へられ、且原益軒先生の養生訓にも詳細に教へられてゐる。然し、文明の發達に伴つて殊に必要なものは公衆の衛生である。我國に於ても、傳染病、結核、下水、國民榮養等の諸問題に就ては、相當考慮せられなければならない。併し、先づ、幼稚園児を對稱として、行ふ健康教育は、個人衛生である。

幼稚園児に健康教育を實施するに當つては、彼等の特質を辨へなければならない。此の時期は、自發活動の時期で

あるから、幼稚園の一つの目的は、彼等をしてよく活動せしめること、も一つ、目的の一つとして必要なことは、よき習慣をつける事である。

健康教育から考へたならば、よい健康習慣を作らせる事が最も必要である。よい健康習慣を作らせるといふ事は、訓練であつて、豫め一定の規則をもうけ、それに従つて、毎日毎日同一行事を反覆して實行する間に其の行動に就ての習慣を作りあげてしまふ事である。

實施上の注意としては、

一、家庭が主になつて幼稚園が之を助ける事。
従つて、父兄に健康教育に就て了解を求める事。

二、幼稚園では、保姆が中心となる事。従つて、保姆自ら健康教育に就て知る必要がある。

三、保姆自ら健康であること。

四、健康教育の方法に就て、保姆の智識に創造力を加へる

こと。

五、健康々日々の生活に結びつけて教へること。

六、消極的よりもむしろ積極的なるべきこと。

兒童の教育上よりみても、禁止は兒童の反抗心と好奇心をそゝり、感化教育上効果が少い。罰則も感心すべき方法ではない。兒童が知らず知らずよい行爲をする様に、平常より教へ導かなければならない。

七、賞として品物を與ふるは不可、言葉にて褒めるがよろしい。

八、兒童の手の届かない所に責任を持たせない様にするこゝ。

九、結果をよくするために嘘を言ふ様な事があつてはならない。

十、成るべく、恐、怒、憎、恥等の感情を抱かせない様にする事。

而して、兒童心理の特質、即ち、好奇心、創造性、競技心、遊戲心等を利用すべきである。幼稚園時代より守るべき健康習慣は、食物、清潔、齒齦、運動、睡眠及び休息、便通、間食等である。是等詳細に就ては、勿論、園兒の環境によりて異なるわけである。

先づ守るべき健康法則を六つにまとめてみる。

一、早寢早起齒をみがけ。

二、何でも食べよ、よく嚙んで。

三、お食事前に手を洗へ。

四、光を浴びてよく遊べ。

五、毎朝一回お通じを。

六、外で買喰ひ止めませう。

勿論幼兒に是等の理由を教へる必要はないけれども、保姆さか、父兄は、多少それを知つて戴かなくてはならない。

(二)人間の健康に睡眠が必要な事は勿論である。殊に成長しつゝある幼兒には、然りである。

米國の家庭では、子供の教育等には餘り注意しない様に聞いて居たが、私が滯米中驚いた事は、米國の父兄は、子供の教育に對しては仲々嚴格である。乳幼兒の時から獨りで眠る習慣をつける事は、獨立心を養ふにいい事と思はれる。私が度々、教授や、友人の家庭から夕飯に招待せられた時に、其家庭に子供が居るゝ異邦人を珍しがつて出て來る。併し、自分達の眠る時間が來るゝ、彼等は兩親及びお客様に「お休み」といつて、さつさ自分の寢室に行つてし

まふ。日本の家庭等で、お客様の歸る迄起きて居る子供が多い様であるが、睡眠の大切な事を考へたならば、時間が来たならば、寢に就かなければならない。日本と外國とで測定せられた子供の睡眠時間を比較して見ても、大體に於て、日本の子供の方が少い様である。

齒並の悪いのを矯正して、子供が健康になつた例を知つてゐるが、近來段々、齒の衛生の必要な事が唱へられて來た。齒科學の進歩につれて、齲齒の發生が、食物に影響せられる事大なりと證明せられてゐる。過剰の糖分が原因になる事は古くから認められてゐた。

此頃米國の學者は、ビタミンC及びDの缺乏もその原因であるを唱へてゐる。齲齒の豫防には何でも食べなければならぬ。

然し、齒を毎朝磨く事は、やはり忘れてはならない。何と云へば、(一)齲齒が既に存在してゐる場合に、不潔物が入ること。(二)不潔の齒は他人に不愉快を感じしめること。等の理由による。

(二)食物は、國民に取つては重大問題である。成長しつ

つある第二世にまつては殊に忽に出来ない事である。之は、土地の習慣、經濟上の點も顧慮せられなくてはならない。都會、農村、漁村等或は、貧富の階級によつても異つてくる。禪坊主が、野菜と粥のみで元氣旺盛だからとて、之を大衆にすすめらるわけにもゆかない。米國の様に、牧畜が盛んで、牛乳が澤山採れ、約六合強を十セント位にて買へる所では、子供に多量の牛乳を飲ませる事は、結構な事である。彼等は成長しつゝある子供に必要な一日一人一瓦のカルシウムは、六合強の牛乳から補給せられるから、米國では子供には、六合強の牛乳を飲ませよと宣傳づつめてゐる。

牛乳の割合高價な日本では、子供に必要なカルシウムは、其他の食物から取らなければならない。例へば、魚肉や野菜等。

我國では、古來から米を主食とし、脂肪、蛋白質は比較的少い。白米を主食としたために、多かつた脚氣病は、胚芽米、玄米、七分搗米等によつて、著しく少くなつた。乳兒脚氣の如きも段々減少して來てゐる。日本國民の體格は、統計によつて見ても、段々向上してゐる。然し、未

だ外國人に比較すれば劣つてゐる事は、一度外國の地を踏んだ人の痛感する所である。食物が體格に影響するものゝすれば、所謂營養食の研究は、日本人の體格向上を目標として、重大な問題である。

食物に好嫌のある子供は随分多い。ビタミン問題の八ヶ間敷い今日、ビタミンA、B及びCを含有する人蔘、ビタミンA、B、C及びDを含有するホーレン草、ビタミンB及びCを含有する玉葱等は、子供に最も嫌はれる食物である。好嫌の原因にも、身體虛弱なために、食欲がないものから、家庭の教育が悪くて、我儘に原因するもの等色々ある。虛弱兒童といふ言葉は近來よく用ゐられるが、之も、仲々六ヶしい問題である。こゝでは、虛弱兒童の定義は省略して、一般に弱い子供としておく。虛弱兒童が結核に原因するか否かは先づ最初に考へるべき事柄である。然し、虛弱兒童が全部結核ではない。其他、虛弱兒童の原因を考へられる者には、生れつきから弱い者、生後、色々な病氣のために發育が阻害せられて、そのまゝ身體虛弱なるもの、現在色々な身體的缺陷のあるため虛弱なるもの、

の、例へば、扁桃腺肥大、齒の異常等、最近の病後恢復期にあるもの、神經質、生活習慣の悪きもの、例へば、間食の不規則のもの、或は運動不足等、色々な區別せられる。勿論、二重にも三重にもその原因が重なつて虛弱なるものもある。

之等の虛弱兒童に對しては、夫々その原因を確めて、彼等が健康になる方法を講ぜなければならない。結核に就ては、熱を測定したゞけでは、之を決定する事は出来ない。ツベルクリン反應、身體検査、X光線等によつて、大體診斷せられるものであつて、早期に、確な診斷をつけて、誤なき治療を講ずる事は、最も必要な事である。小兒結核に於ては、肺門淋巴腺結核が非常に多く、之は、肺結核とは、大分違ふ。殊にその治療に到つては、違ふものである。歐米の小兒サナトリウム等には、この肺門淋巴腺結核患兒も随分收容せられてゐるが、非活動性のものには、相當な運動、日光浴をやらせて、弊害は少しもない。即ち、夏は、水泳の教師を備つてプールで水泳をやらせてゐるし冬は、スキー、スケート、春秋には、サナトリウム野球チームを

編成して、遠征したりしてゐる。小兒結核に經驗、學識深い醫師の監督の下には、一人の過もないのである。

(三)發育盛りの子供には、日光新鮮な空氣、適度な運動等は必要な事である。都會の子供は、殊に、電車や自動車の交通頻繁である爲、自由に戸外に遊ぶことが出來ず稍々もすれば、家に引込勝ちになる。運動は不足、食慾は不進、遂に、都會の子供は、田舎の子供に及ばなくなるのである。平常、郊外に出で、運動する事が出來なければせめて、日曜日、休暇等には、思ふ存分、公園や野原に出で、遊ぶべきであらう。

(四)食事前に手を洗ふことは、汚い手にて食物に觸れる事を防ぐ、即ち、傳染病の豫防といふ意味もあるけれども、要は、清潔の習慣をつける事である。

(五)便通回数多き時には、誰しも、醫師の手當を受けるから、家庭としては、むしろ、便秘に對する注意が必要である。幼兒の如きは、便秘のために、發熱する事もある。一般に便秘すれば、食慾は減じ、氣嫌悪く、不活潑になる。便秘の原因としては、運動不足とか、纖維を多く含む食物

(即ち野菜類)の不足とかによる。

(六)家庭の教育の行届いた家では、無暗に買食ひをさせないけれども、環境が買食ひをさせる所では、段々子供は、そういう習慣にならされる。こんな所では、小學校が中心となつてその矯正に當る必要がある。街で賣つてゐる駄菓子の子は、随分いかゞはしいものがあるので、衛生上より見ても、默視出來ない。

子供の間食は同時にこゝで考慮せられるべき問題で、殊に虚弱兒童の場合には、之を甘く利用するに宜しい。弱い子供は、一度に食べる食事の量が少い場合が多い。こんな兒童には、食事の回数を成るべく多くしてやる。従つて、間食を午後三時に與へるゝすれば、甘い菓子の代りに成るべくカロリーの多い物、場合によれば軽い食事を與へる。菓子は、食後に與へた方がよろしい。

以上健康六則に就て、大體の説明を試みたつもりである。次には、幼稚園でつけられるべき清潔の習慣に就て、もつゝ述べて見たい。最も實行し易い方法は、毎朝、清潔検査をして、兒童に清潔習慣を實行させる。

大型の動物製作

附屬幼稚園 村上露子

大きい組になりましたから、動物園を作り度いさは、かねぐもくろんで居りました事で御座います。それと思ひ切つて大まかな力の仕事を主體として、大掛りな動物園を作り度いさ、其の機會をねらつて居りました。

或る朝の事、前日の續いたお休みに、偶然にも數人の子供が動物園に行つたさ、しきりに話をして居りました。如何にも親しみを持つて居る様子に、私も乗り出して、

「象さんに乗つて見たい？」

さ切り出しました。みんなはニコ／＼笑つて頷びます。

「何がお好き？」

「僕ライオンだよ」

「私兎ちやんだわ」

「象が好き」

「みんな好きだい」

「山の組でも動物園作らないこと？ててもいいのを」

「うん作らう」

ミ殊に力の溢れた正大君が、眞先きに力強く申しました。他の子供達も目を輝して居ります。

「馬だの象だの、大きいの作りませうよ。皆さんの乗つかれる様なのね」

「先生何で作るの？」

「大きな木の箱があるでせう、あれで作つたらさう？頭ミ脚ミ尻尾をついたら本當に乗つかれますよ」

「いゝね」

ミ皆んな大喜びで御座いました。

その翌朝——元氣な正大君は、「お早よう」ミ云ふ聲ミ共

に、眞赤な顔をして、ビールの空箱をうん／＼兩手にかゝへて來ました。

「さあ先生作らうよ。お家にあつたからこれ持つて來たんだよ」

正大君の熱心さ、それにも増して、お家の方が子供の爲に遠い路をわざ／＼空箱を下げて持つて來て下さつた事を思ひます、本當に嬉しう御座いました。

早速、水牛がいゝ云ふので、板を探して參りまして、それに水牛の正面の顔を描きました。板に大きく描くのは初めてで、なか／＼思ふ様にいかないで、消したり描いたり、お友達が來て、「こゝはこゝなつてるよ」と手傳つたりして、さう／＼いゝ水牛の顔が出來ました。

色々動物の寫眞帖や繪等をすぐに見られる様に、お部屋に置いておきました。親夫さんもキリンを作り度いさ申します。寫眞を見ながら、可愛らしい、首の長いキリンの横顔を描きました。このキリンは、正大君の持つて來てくれたビール箱を胴にするさ、丁度いゝので、水牛は又別の大きな空箱を見つける事にして、讓つてもらひました。顔は

鋸で切つて切りぬきます。さて横向きのキリンの首を、さう云ふ様に胴になる箱に取り付け様か、子供達と一緒に考へました。首が動く様に等ミ六ヶ敷い注文も出しましたりして、やつ／＼思ひ付きを致しました。みんなで代る鋸で切つたり抑へたりいたします。物置から長い棒を持つて來て、脚になる様に適當の長さに切りました。子供が歸つてから、兎に角此のキリンを一つだけ明日迄に作り上げて、先づ子供等を喜ばせて上げたいさ云ふ氣持が一杯で、實習科の方々と一緒になつて、何度か失敗しながら、其の日は夕刻迄かゝつてやつ／＼首と脚がつきました。

案の條、翌朝は、先づ部屋に入るや否やすつ／＼立つてるキリンを見付けて大喜び。「いゝね」「脊が高いね」脊中をなでてゐる子供もあれば、早速椅子を臺にして脊中に跨り、首を動かすやら大騒ぎ。

この一匹のキリンを見ていよく皆が乘氣になり、さあ水牛も作らう、虎もさ大變な意氣込みになりました。大きな蜜柑箱に先きの水牛の首を取り付ける事にいたしました。今までに氣が付かないで本當に申譯けない事をしたさ

思ひましたのは、彰さんがこの動物を見て心から嬉しさうにして居た事で御座います。いつも仕事は好きでなく、興味もなさそうで、云はれゝばするが、ちよつと目を離すゝすつと途中で抜け出して、一人で本を讀みふけて居るゝ云つた具合で御座いました。「水牛の首はさう云ふ風に付けたらいいのか知ら？」と誰れに聞くでもなしに云つて居りましたら、其の彰さんが一人でさう何か探して居りましたが、本の寫眞の中からわざ／＼水牛を見付けて來て、首はさうなつてゐるから、この位の長さでさうつけるさうなんだよと色々教へてくれました。其の上鋸で木を切つてくれたり、一々寫眞を照し合せては適當な位置に釘を打つたり、大變な力の入れ方です。思へば今までの仕事は彰さんにさつては、少しも力が入らない、面白味のない手答へのないものだつたので御座いませう。其れをおろかにも氣付かずに、仕事の嫌いな子にしてのみ心配して居りました私は、申譯けなささ、又一方後ればせ乍らでもこの動物製作に依つて、眞の力を誘導し發揮させる事が出來た喜びを感じました。

子供達は脚にする木を切つたり、釘で打ちついたり代りに力一杯働きます。子供達に出來る仕事は全部子供の手でさせる様に致しますので、仕事が大きいので、一匹作り上げるのにもなか／＼日數がかゝります。晴れた日に外に持出して色塗りを致しますのは、主に女の兒で御座います。ラクダに、キツネ、ライオン等一匹々々出來上る度に、皆の喜びの度も増し、それは子供のよい遊び相手になります。動物の脊中に乗つて遊ぶのが何よりも嬉しいらしく、殆んど毎日お庭に連れ出したり、お山に登らせたりいたします。或る時は兵隊の馬の代りになったり、お客を乗せたり、荷物を運んだりなか／＼色々の面白い遊びが進展いたします。時々他所の組からお客に見えます。ライオン上の騎士は得々として首を動かしたり、耳を引つぱつてハンドル代りに廻したりするので、度々顔や首の大修繕をしなければなりません。然し其の度により丈夫な方法を工夫いたしました。こんなに皆から可愛がられて、動物も本望で御座いませう。

やがては動物園をさ云ふ計畫では御座いますが、こんな

に一つ／＼の動物を生かして楽しく遊ぶ様子を見ますと、今暫くこの儘の状態において、一方製作を続け、動物を柵の中に入れて観覧に供する動物園を開くのは、もつゝ後でいゝ事だと思ひました。

この仕事は興味の湧いた時には、毎日誰かが製作をし、二週間も其の上も続く事もあれば、他のしなければならぬ仕事があつたり又一時興味が違つた方に向ふ事等も御座いまして、暫く休息状態になつた事も御座います。部屋の一部に作業臺を置き、大小色々の空箱、板、棒及び尻尾にする爲の縄さか、針金、布等の材料さ、鋸、釘、金槌、鉋等の道具は何時でもすぐに使へる様に用意いたして置くべきです。材料の不足の爲に、折角作り度いさ申します時に作らせる事が出来ませんで、好機を逸してしまつた事が御座います。材料を豊富に取揃へるさ申ししても、材料費に限りが御座います故、新らしいものばかりではとてもやり切れませんので、なるべく費用のかゝらぬ様なもの——空箱はもとより、一度何かに使つた不用の板、建物の足場や棒杭等の不用な丸太棒も利用致しました。兎さか小

豚さか小鹿さか、小さな可愛らしいものを作らうさ相談が定りました時に、子供に、「もしかお家にいらぬ丁度いゝ箱があつたら頂いて来て頂戴」。さ申しましたら、随分澤山皆が持つて来てくれました。昭子さんのお家では、お母様が、「何で御座いますか、昭子が兎を作るのだからお父様に箱を作つて頂戴さ申しまして、一々大きさを自分で註文いたしまして、さう／＼一日掛りで作つて参りました」。さおつしやつて丈夫な箱を持つて来て下さいました。よく子供等はお休みの日に動物園に連れて行つて頂く様で御座います。或る日、例の正大君は朝お早ようさも云はないでいきなり、「先生カリンの目見て来たよ、さうぢやないよ、筆かして」。さ申します。墨さ筆さを渡しますさ、既に出来上つてゐた二匹のカリンの側に椅子を持つて行つて、たつぷり筆に墨をふくませて、いきなりぐる／＼大きな目を描きました。さうするのさか内心はらく／＼しながら様子を見て居りました私は、出来上つたのを見て、「まあ本當にさうね」。さ心から感心してしまひました。一つ／＼作る度に感じる事で御座いますが、實に子供達の觀察のさういへる

事ミ、それからちよつとした事でもいゝ加減には濟まさない事で御座います。この間も道雄さんが鹿の脚にする棒に鉋を掛け様ミして、ふミ何か思ひ付いたらしく、他の棒を採して切つたり、又釘を打ちつけたりして居ります。何にするのかミ様子を見て居りますミ、やがて出来上つたのは鉋をかける臺です。「大工さんがしてゐるのを見てたんだよ」。ミ申します。成程これなら人におさへてゐてもらはなくとも一人で鉋がかけられます。よくも工夫したものだミ存じました。又小豚の色塗りを致しました時の事、少々色に赤味が勝ち過ぎましたかミ思ひ乍ら其儘にして居りましたら、早速夫れを見て子供はこんな事を話して居りました。

「豚の子供はこんなに赤くないよ」

「怒つてゐるんだよ」

「そうぢやないよ、きつミ恥しがつてゐるんだらう」

何て可愛い事を云ふのでせう。色々子供達の意見も出ましたが、豚の赤ちゃんだからこの儘の色でいゝミ云ふ事にきまりました。

昨年の暮から、子供達の小學校入學檢定等の諸問題の爲、何かミそちらの方に絶えず細かい注意を配り、先生も、子供も何か落付かぬ氣持ちで日を過して居りました爲、大さい仕事は餘り手を付けられませんでした。それもすつかり濟んで、いよく二月から初めの計劃通りの動物園を開く爲に、皆々忙しく働いて居ります。未だ足りない動物をぎん／＼作るミ共に、柵を作りましたら急に動物園らしい感じがして參りました。忙しく働くのは氣持のいいもので御座います。動物園ミ云ふ目的に向つて皆が力を合せて、お部屋の中で或る子供は顔を描く、一方では脚の棒を切る、鉋をかける、釘打ちをする等、外のテレスでは色塗りをするミ云ふ様に、子供達皆が全く夢中になつて仕事を續け、お晝のサイレンが鳴つて初めて時間に氣が付いた事も御座いました。そんな時にはお辨當だミ呼んでもなかなか仕事を止めません。棒切れや板の餘り等を巧く利用して何日もかゝつて一人でこつ／＼ミ飛行機や軍艦等を作つて居る子供も御座います。もうこの頃では男の兒は申すに及ばず、女の兒でも鋸も使ひますし、釘打ちも大變上手に

なりました。たゞ子供等が危い道具を使つて居ります時は必ず先生が傍に付いてゐる事に致して居ります。

いつの間にか随分動物の数もふえました。只今ではキリンが二匹——この中の一匹は昨秋畏くも、皇后陛下の台座を仰ぎ奉つた折に陳列いたしましたして、勿體ないで申上げますが、有難い極みで申上げますが、陛下御手づからこのキリンの首をお動かして遊ばされた由、倉橋先生から承りました。何と云ふ光榮のキリンで御座いませう。子供にも後でその話を致しまして、殊に大事に致して居ります。——それから親豚小豚が三匹、鹿の親子、縞馬、水牛、狐、犬、兎が數匹、三匹の猿、猛獸では豹、ライオン、虎等が出來上りました。豚の子と兎とは一番女兒に可愛がられて居ります。おまゝごこの時には必ずお仲間に入れてもらつて居ります。豚だの兎だのに洋服や色々の着物を着せた繪が大はやりで御座います。

其の他に小鳥も色々作りました。(粘土で作り繪具で着色いたしました)。可愛らしい小鳥の小屋も出來、巢の中には卵も入つて居ります。道雄さんがお家からわざわざ小鳥の

餌をこしらへて持つて來ました。やさしい心使ひです。

小鳥作りの間にも、又子供の本當のよさを見出す事が出來ました。律夫さんは體も弱々しさうですし、友達交渉もありなく、仕事に熱中するでもなく、はつきりしない存在だつたので御座います。ところが或る朝、一人でお部屋の瓶から粘土を出して參りまして部屋の隅つこの机に向つて何かしきりに作つて居ります。さうするのかわからぬ様子を見て居りますと、小鳥の様なものを一生懸命に作つて居ります。それが只一つのを毀したり作つたりして居ります。友達が側で騒いでもまるで振りむきもせず、あまりいつもと違つた眞剣な態度に、さうするか知らぬだまつて終りまで見守つて居りました。もうお晝も近い頃——二時間餘りも絶ちましたが——やつと氣に入つたのが出來たさ見え、「燕が出來た」云つて持つて參りました。其の時の嬉しさうな顔！律夫さんにこんな力があつたのかと、私も本當に嬉しう御座いました。これを機會に申しますか、其れから後の律夫さんの總ての製作に對する熱心さはすばらしいもので御座います。

こゝ暫くはお雛様のお仕事に向つて居りましたので、動物園の製作はあまり進行致しませんでした。お節句も済みましたら、いよいよ最後の幼稚園生活に、最後の馬力をかけて、尙この外、象に、水鳥のお池、賣店、切符賣場等を完成し盛大に動物園を開園いたさうと意氣込んで居ります。

* * * *

動物の作り方を簡単に申上げませう。何かの御参考にもなりましたら幸せで御座います。

顔、

顔に用ひる板は、二分か三分位の厚さが手頃で御座います。新らしいのばかりでなく有合せの箱の蓋を使つたり、一度何かに使つた不用のものを探したり致しました。

板に顔を描かせるので御座いますが、普通は正面の顔がよろしく御座いますが、キリン、ラクダの様に、横から見た方がその特色がよくわかるものは、横向きの顔と首との續いたものを描きました方がよく感じが出ます。象の顔は箆を利用し、鼻は針金を螺旋狀にしてつけて見たらさうか知らざる考へて居ります。一つ注意致します事は、だまつて居

りますとさうしても顔を小さく描いてしまひます。胴のきまつて居ります場合には、この位の大きさにきちよつと申した方がいゝ様で御座います。切りぬくのは先生が鋸ミシンで致します。

胴、

前にも申しました様に色々な空箱を利用いたしました。

大小の果物の箱、ビール箱、お菓子箱、それから釘樽等で御座います。顔の大きさに依つて箱を求める場合、箱の大きさがきまつてそれに合ふ様に顔を描く場合、御座います。子供達が脊中(箱の底に當ります)に乗りますから、丈夫に出来て居るもので、あまり古くて腐りかけた様なのはいけません。

首、脚、これは丸太棒と、角棒と兩方用意出来ればよろしく御座います。動物でも太つたのには丸太棒を使つて見ましたが効果が御座います。脚の長さは、少し不經濟の様ですが脊中からの高さだけ用意する方がいゝと存じます。

脚の一端が箱の底につく様にして、底と兩側からしつかり釘で打ちつけます。これは一番丈夫にぐらぐらしない様に

致しません。危なう御座います。例外として虎は胴に丸味のある釘樽を使いましたので、脚は横側につけなければなりませんでした。なか／＼うまくつきませんで何度も失敗いたしました。首は丸太棒なり角棒なりを、顔ミ胴ミ脚ミの釣合ひを考へて適當に長さを定め、一方を少し斜に切ります。脚が付きましたから、斜の方を脚の前部に打ち付け、

もう一方に顔を(正面向きの)つけます。たゞキリンミラクダの横向きの顔ミ首は、胴の脊中から前部にかけて首の入り込むだけの穴をあけ、そこに挿込んで上手に横側から釘を打つて止めます。又動かす様に致しますには、胴の兩横ミ首の下の方に穴をあけてそれに丈夫な針金を通します。動きます。でもこの横向きには大分苦心いたしました。この場合顔は両面に同じ様に描きます。

尻尾、

これは動物の種類に依つて色々工夫いたしました。虎は繩を三つ編にして針金を通し、自由な形に曲げられる様にする。キリン、鹿等は棕櫚繩を中にして、先きだけを出し、他は綿を入れて其の上を布で巻きました。縞馬、狐は棕櫚

で作る。兎は布で可愛い袋を作り、その中に綿を入れてつける。豚は、細い針金を數本寄せて其の上を布で巻いて見ました。色々考へます。面白う御座います。

猿は少し趣きを變へて平面的に全體の形を描く事にして見ました。木の枝にぶら下げたり致します。大變に感じが出ます。

小鳥の小屋は、小箱や蜜柑箱の一面を丸くくりぬいてそれに屋根を付け、柄を付けて、立つ様に致しました。

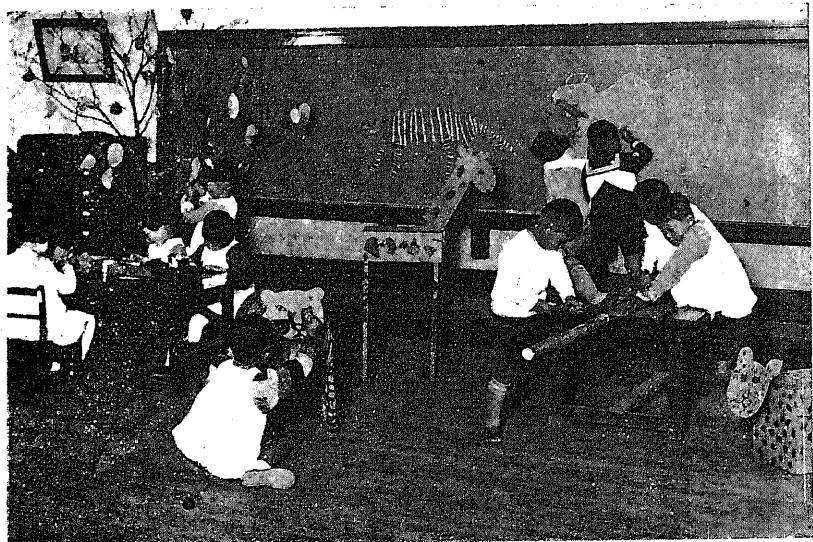
其の他柵等は適當に子供達、ミ相談しながら色々工夫する。よろしい。存じます。

色塗り、

塗料はカゼインを使いました。小さいバケツミ刷毛を用意いたします。これは數時間絶ちません。水にすつかり溶けませんから、豫め前日からバケツに溶して置きます。

お天氣のよい日に塗つてさつと乾く様に致します。色が落ちない様で御座います。よく塗る時にこぼれたり致しますから、なるべく外で塗る様にいたして居ります。

以上御参考になりますか。きうか存じませんが、これはこ



うしなければならぬ云ふ定めが有るわけでは御座い
せん、たゞ子供等と一緒に力を合せ度々喜びやら失敗やら
を重ね乍らこゝまで歩いて参りました。どうぞ御批評下さ
いませ。

ヤマノクミノドウブツエンへ

ドウゾオイデクダサイ

といふ入場料まで添へてのおまねきを受けたのは
三月十三日の朝でした、小さい組の喜び様。

みんなに親しいぞう、キリン、ライオン、トラ、
ラクダ、それにまつ白いスワンの二羽泳いでゐるお
池、ふか／＼した緑の草の中に赤い眼をあけてる兎
かはいゝ小鳥小屋、先生達まで思はずうれしくなつ
ておせんべいやおいもをやりましてね。

かはいゝ絵のかいてある入場券は皆自分達のおへ
やにもつて來てはりました。(森のこども)

「父と子」の映畫

奥 平 英 雄

母性愛といふ言葉は、人類の女性がこの地上に生み出された創生紀に於いて、その時から既に彼女達の心臓の上に烙印された最も大きな魂の義務であつて、今日ではこの言葉はあまりにも普遍的になり、あまりにも常識に化され、

我々が水や太陽を呼ぶのと同じやうに殆んど全く何等の驚異も興感も起さなくなつたやうな氣がします。謂はゞ、それほゞにも母の愛の大きくして醇澤であることを教へられるのでありますが、之に對して父性愛といふものはそれほゞにも強調されて來なかつたやうです。之は云ふまでもなく父親の存在なり立場なりが、全然母親のそれと職能を異にし、父親は母親ほゞ常住坐臥子供の側に暮し、之と共に在ることが許されなかつたために、自然にさういふ結果になつたとは思ひますが、然し之だけの理由で父性愛といふ

ものをさう簡單に片付けることは許されない、私は思つて居ります。一體子供にまつて親の愛といふものは、母の愛、父の愛と區別して考へられるべきものではなく、本來はこの二人のものゝ渾然たる結合體である筈です。子供にまつては父、母のその何れが缺けても重大な齟齬を來すので、親の愛といふものは兩親が二人そろつて子供に放射しなければならぬ魂の太陽でありまして、その一方だけではきうしても子供の心に行きわたらない何ものかがあるやうな氣がします。

が、そうした理窟は暫く措きまして、さも角も我々の歴史に於いて、母性愛に較べるに父性愛といふものはあまりにも片隅に置かれて來たやうな氣が致します。東西の文學や演劇、美術の上に於いても殆んど母性愛に獨占された形

であります。前にも述べましたやうに、父親の愛情がいふものは母親のそれとはその現はれ方や性質に於いて幾分異なるところはあります。その方向に於いては全然同一である筈なのです。かつ、もつて之が藝術の上にも表現され、検討されて來ても良かつたらうに私は考へるのです。

ところで映畫の上に於いても同様で、母性愛を描いた作品は之迄相當にありますし、又その中名高い傑作にも乏しくありません。ところが父性愛を描いた作品は云ひます、之は甚だ乏しかつたやうに思ひます。謂はゞ子供といふものは、母親によつて慈しまれ育まれて行くものだといふ觀念が非常に強く歴史の上に刻みこまれてゐて、父親がその愛を發揮する餘地は極度に縮められ見逃されて來てゐるやうに思へます。ですから父親が文學なり、映畫なりに登場して來る場合には、單なる一個の平凡な父親としてか、又は子と相争ふ立場に置かれた頑迷な父親として、又つて、もつて父親には父親としての獨特な心境のあるものであることを親切に描いたものは非常に稀なやうであります。假令父親としての愛に終始したものでなくても、一個

の人間としての弱點や悩みを懷き、人の子の親としての種類の心境を往來するものであるならば、それだけで立派なものが生れて來るやうに考へますけれど、そうしたものが矢張稀なやうであります。

扱つかうした數の少いものゝ中から、特に私の印象に残つて居ります「父と子」の繋りを描いた作品を二三拾つて何か書いて見ようと思ひます。

アベル・ガンスに申します、フランス映畫界の元老であるばかりでなく、世界の映畫史上特筆されなければならぬ功績のある監督でありますが、この人の作品に『鐵路の白薔薇』といふ傑作があります。之は今から十二年ほど前（一九二三年）に出來たものでありますが、『映畫の抒情詩』と迄呼ばれた映畫藝術の最高峯を示すものでありました。之は映畫藝術としての技巧に於いても、表現に於いても、リズム、光なきといふ點に於いても完璧に近いこと勿論でありましたが、そればかりでなくその中に描かれたテーマに於いても、充分に文學的な要素を具えてゐたものでありました。

鐵道の機關士にシジフといふ一人の若い男が居りましたが、彼は不幸にも男やもめでおまけに一人の幼児(男の子)の父親でありました。このシジフが或る日のこゝ自分の運轉する列車を何かの間違ひで他の列車と衝突させて了ひました。そして阿鼻叫喚の中から、この衝突のために死んだ母親の手に抱かれて不思議にも生き残つた一人の女の幼児を拾つて連れ歸ります。月日が経ちまして自分の子も拾つた子も共々男の手一つで大きくなりますが、子供達はその経緯を知らないで本當の親子、兄妹だと思つてゐます。女の子は次第に成長して年頃になります、之は又花も恥らふやうな美しい娘になつて來ました。そうする、之迄父親のやうな氣持で手鹽にかけて育てゝ來たシジフの心に、何時の間にか年甲斐もなくこの娘に對する戀心が萌え出して來たのです。抑えようとしても抑えきれない情愛が、何時の間にか自分の容貌、身なりにまで心を碎いてこの娘の心にこり入りたいといふ欲望まで湧き立たせます。そうしたシジフの心を知る由もない娘は、自分の息子との之はまたひびく睦じい間柄を見てゐます。嫉妬と懊惱に苛まれ

ずには居られないのです。そうして到底自分の手に歸するものでないを諦めたとき、せめて息子の身邊からでも遠いところに娘を離さうと決心して娘を見染めたある男の許に嫁がせて了ひます。ところが息子はさうも妹が本當の妹ではないといふ直觀さひひますか、さうもさういふ氣がしてならない。娘も兄さんといふやうな淡々たる氣持ではなく、世の中の一癖なつかしい男性としてのみ感じられる。この自然の相呼ぶ感情をさかれて二人は別れるのですが、この女の氣持を知つた女の夫が非常な嫉妬に驅られて、息子に雪に蔽はれた山の上で決闘をします。息子は誤つて谷底に落ち夫は撃たれて仆れます。その頃シジフは機關車の修繕中、強烈な蒸氣が洩れて兩眼をやられ失明して了ひました。この失明したシジフが今は亡き息子の十字架を建て、ために、犬に手を曳かれて山の上の息子の墜ち場所に登るのです。見えない手でその十字架を建て、見えない眼にはかなかつた父と息子の因縁や宿命を偲んで、今は泣くにも泣かれない孤獨の中に包まれ乍ら、デツミ手を組んで祈りを捧げるところがあります。この地上に影を落した十字

架ミ父親の祈禱の姿ミが非常に繪畫的な迫力を以て、いつまでも私の眼から去らないで居ます。之は父ミ子ミの愛慾の惱みを描いたものではありませんが、シジフミいふ一個の平凡な人間の、人間ミして、又父親ミしての一生が非常に細かく描かれた作品でありましたので、今日でも古典中の古典ミして第一に指を屈せられて居る寫眞であります。

次に獨逸の有名な俳優エミール、ヤニングスがアメリカに渡つて作りました『肉體の道』ミいふ寫眞がありますが、之は前記の作品ほゞ傑作ではありませんでしたが、それでも當時騒がれたものであります。ある眞面目な家庭の父親

が會社の用で旅行に出ましたが、旅先でつまらぬ女の誘惑に遭ひ公金を費消し、つひに行衛をくらませるために自殺したやうに装ひました。それから幾十年かの後、老ひさらばへて故郷に歸つて來ますが子供達はそれぞれ成長しまして、殊に長男は提琴家ミして漸く樂壇に認められるやうになつてゐます。今日しもこの息子の演奏會が開かれるといふ日に、乏しい財布から一枚の切符を買ひまして、人々の歡呼の中にある子供の姿を見上げ乍ら終始泣き濡れてゐる

父親の姿は、ヤニングスの熱烈な演技にもよりますが、非常に私達の胸を打つたものであります。而もかうした長男や妻や他の子供達が、自分をミつくに死んだものミ信じて、或る日墓參に行くのを見かけますけれど、今は父親ミして到底名乗るこも適はないで、泣き／＼雪の中に消えて行くのですが、この最後の、子は親ミいふこを知らず、然し人なつかしくやさしくこの老人を勞はる場面、父は父親ミ名乗れないで唯々子の顔をうち守る場面は、やはり我々の涙を誘つたものであります。

この二つの寫眞は、何れも父親そのものゝ性格的な、又は運命的な弱さから來る悲劇を描いてゐるものであります。が、要するに父親も子の側を離れては生きて行けるものではない、子は母ミ共に父親の力によつて成育して行くものではあるが、父親もまた子の愛なくして、子の存在なくしては、完全にその生を全うし得るものでないこを物語つて居ります。

ミころで、今度は轉じて日本の映畫をのぞいて見ます。小津安二郎ミ云ひますミ、ミなたも御存じのこミ、思ひま

すが、この監督は現在の日本映畫界では最も藝術的良心を持つてゐる優秀な監督であります。この人の作品に『生れては見たけれど』(昭和七年製作)といふ寫眞があります。之は子供を中心として子供の眼に映じた大人の世界、父親の生活を語つたものでありまして、前の米佛の寫眞とは異つてこゝに人間の社會苦といつたものを描いてゐるのです。そしてこの點が特にこの映畫を歴史的にも藝術的にも賞揚させた原因なのであります。小學校に通つてゐる良一と啓二といふ二人の兄弟が出て來ます。この二人の父親は所謂サラリーマンでありますが、この父親は自己の昇進と自己の家庭の安全を計るために、日夜會社の専務の御機嫌をこころみに窮々たる有様です。例へば會社の同僚達には子供の健康のために郊外に引越すのだと稱して、特に専務の邸の近所に轉宅する。そして何彼につけて専務の邸にも出入しまし、會社でも専務の命とあれば假令社員達の前でも滑稽な藝當位は演じて見せる。御蔭で次第に昇進しまして今では課長の椅子まで與へられてゐます。然し家庭にあつては嚴格な父親としての態度で子供にも臨み、そうしたこゝ

を知らない子供達は自分のお父さんはなんとも偉い人だと思つてゐます。この二人の子供は今、やんちゃな盛りではありますし、又正直な子供のこゝでありますから、たゞひ近所の専務の子供が金持の子であらうが、父親の主人の子供であらうが、てんでそんなこゝには御構ひなしです。そればかりか、専務の子供が金持を笠に着て近所の子供に君臨してゐるのが目障りで仕方がない。ですから何彼につけて對立してゐます。殊に良一の方は、自分の方が専務の子供(太郎)よりも學力でも腕力でも優れてゐるこゝを自認し、この優れた力を何よりも誇りとしてゐるのです。ミところが或る晩のこゝ、専務の邸で専務の道樂のバッテリーの映寫會が開かれまして、良一と啓二の父親も他の社員達と一緒に招かれ、子供達は子供達で一緒に之を見物させて貰ふこゝになります。この映寫會は、初めのうちは隅田川だとか動物園、銀座などの實寫が出て來ますが、麴會社の風景が映されますと、良一達の父親が多くの社員の前でペンギン鳥のやうな格好をして、大いに専務を初め社員の爆笑を購つてゐる、珍藝を演じてゐる場面が映ります。

日頃子供達の前では厳格な態度を持ち、厳格な教訓を垂れてゐる父親は、之は全く似ても似つかない姿なのです。

今までかつて一度も見たこともない、思ひもよらぬ、父親の野放圖もない破廉恥な姿なのです。この恥しさ、この口惜しさ、この惨めさ、この感情が二人の子供達の胸に込みあげて來まして、二人はこの邸からさび出して歸ります。

昨日迄描かれてゐたお父さんの尊嚴も親しみも、もう子供達から消えて了つたのです。そしてそこにはたゞ貧弱な一人の男としての父親があるだけです。で、子供はその後に歸つて來た父親の前に突つ立つて云ふのです。

良一「お父ちゃん」

父親「ウム」

良一「お父ちゃんは僕たちに偉くなれ、偉くなれと言つてる癖にちつとも偉くないんだね」、「さういふ譯で太郎ちゃんのお父ちゃんにあんなに頭を下げるの？」

父親（當惑さうに苦笑しながら）「さう簡單にはゆかんよ、お父ちゃんは岩崎さんの會社の社員だからね」、「つまり太郎ちゃんのお父さんから月給を貰つてゐるんだよ」

良一「月給なんか貰はなきやいゝぢやないか」

啓二（そばから）「そうだ。そんなものこつちからやればいゝぢやないか」

父親（たしなめるやうに）「お父さんが月給を貰はなかつたら、お前たちは學校へ行く事もご飯を食べることも出来ないぞ」（威壓的に）「それでもいゝのか」

良一（一度自分の部屋に歸り、出て來て）「さうして太郎ちゃんのお父ちゃんだけ重役で、うちのお父ちゃんは重役でないの？」

父親「太郎ちゃんこそはお金持だからだよ」

良一「お金があるから偉いの？」

父親（撫然として）「世の中には——お金がなくて偉い人もある」

良一（切りこむやうに）「お父ちゃんはさつちだい」

父親（むつきして）「さうしてお前たちはそんな事をうるさく聞くんだ」

啓二（そばから）「矢張り偉くないんだよ」

良一（父親の父としての尊嚴さを保持しようとする、その威

壓的な視線に屈しまいとして」「そんな顔はこはくないや」

良一「こみ上げて来る口惜しさから」「お父ちゃんの弱蟲！」

「お父ちゃんの意氣地なし！」と同時に良一は、自室の品物を手當り次第投げ散らす。啓二もついて投げ散らす。

父親立ち上つて良一を引つ摺み、自分でも解決の出来ない、悲愴な憤りを以て、己れの面を打つ如くに子の體をひつぱたく。子供等は泣き出す。

母親(その中に割つて入つて)「お前たちはいゝ子だからおだまりね」

良一(泣きじやくり乍ら)「僕は太郎ちゃんよりも強いし學校だつて上なんだ」「大人になつて太郎ちゃんの家來になる位なら學校なんかやめだい」

父親「何を云ふか！判らない奴だ」(摺みかゝらうとするのを母さめる)。

子供達の部屋――

啓二「兄ちゃん、ぶたれたね」

良一「いくらぶつたつて、偉くないものは偉くないんだ」

啓二「寝ようよ」

子供達蒲團の上に仰向いて横はる。

夫婦の部屋――

父親(憔悴したやうな顔をして)「さうも困つた奴だ」(酒の瓶をこり上げながら)

「酒でも飲まなけりやあ！」

母親(考へながら)「子供にはもう少しやさしく話が出来るいものでせうか？」

父親「子供達の氣持は俺にだつてわかるよ」

「しかしあの場合、あれよりほかに方法があるか」

母親「それぢや、あれで子供が納得したこでも仰言るんですか」

父親(きつく、而も佻しく)「この問題はこれからの子供には死ぬまで一生つきまわるんだ」「俺だつて何も好き好んで事務の御機嫌はこりたくはないんだ。馬鹿々々しい」「でもそのお蔭で、生活だつて前よりずつこ樂になつて來てゐるんだ」

母親「それは私にだつてわかつてますけれど」母親は起つて子供の部屋に行く。父親もついて入る。そして、もう無

心な寢息をたてゝスヤ／＼と寢入つてゐる子供達の寢顔をうち守る。良一の眠つた眼からはまだ干かぬ涙がにじんでゐる。母親それをそつと拭いてやる。靜かな／＼子供達の寢息。そのいぢらしい、可憐な子供等の顔を何時迄もうち守る寂しさうな親達の顔。

父親「こいつも一生忙しく爪を噛んで暮すのか」「俺のやうなやくざな會社員にならないでくれ」

以上書き抜いた父ミ子の對話の部分、親達の會話の部分が、この映畫のクライマックスに當るミこころです。この映畫は、子供の口を藉りて、かうした子供の眼に映じた世の多くの父親達の生活を語り、之を批判しようとしてゐます。何も知らないが故に、それだけ何もをも純粹に考へる子供の口を通して、現代の小市民階級の生活の矛盾や、生活の悩みミ云つたものを此處に描いてゐるのです。現代のやうに生きるに難い社會に直面しては、その日その日の糧を獲るにも、立身出世をするにも並々ならぬ苦勞が要ります。餘程の才、餘程の實力、又は餘程の無暴な押し力等を有たない、たゞに善良で氣の弱い人間でしかないものが、自己

の經濟生活、家庭生活を樂にしようミ企てるなら、彼等は涙を飲み乍らでも甘んじて幫間的態度でもこらなければならぬのかも知れませんが、この社會の人々が全部が全部善良でない限り、殊に上に立つ權力者に無暴なものである場合には、自己の生活を護るためには、嫌でも何を何時の間にか傷つけ、踏みにじつて迄自己の立場を固守してゐる人がないミも限りません。現代は、遺憾乍ら金が多くものを云つてゐる時代であります。かうした時代にあつては、非常に多くの小市民階級が自己の本心ミ反對の方向に、無理にも歩んで行つて居ります。お金の有る無しで人の偉い馬鹿が決するものでは勿論ない、お金がなくても偉い人はある、ミこの父親は云つてゐるのですけれど、然しこの父親の生活はこの反對を目ざしてゐるのです。こゝにこの映畫は、父親の姿を藉りて來て現代の世相を現はし、子供の姿を藉りてこの世相を懷疑せしめ、批判せしめて我々の理想を暗示しようミ企てゝゐます。つまり此處に現はれる父ミ子は、即ち現實ミ理想を象徴したものでありまして、此處にこの映畫の特質があつたのです。

最後の、父親の「こいつも一生佗しく爪を噛んで暮すのか
さいふ咏歎的な場面、そして先程折檻した我が子の、涙ぐ
んだまゝスヤスヤと寝入つてゐる顔をデッこうち守つてゐ
る佗しい父親の姿、この父ミ子の二つの顔は、現代の一面
を捉へてゐるさいふ點で、そして我々に大きな暗示を與へ
てゐるさいふ點で、いつまでも忘れられない映畫であります。

この小津氏は、その後『出來心』とか『浮草物語』『箱入娘』
と云つた親子の對立した作品を製作してゐますが、何れも
『生れては見たけれど』ほどの強さゝ逼迫力を持つものではあ
りません。たゞ『出來心』さいふ作品では、妻を失つた、そ
して小學校に通つてゐるいたづら盛りの息子を有つた、無
學で而も子煩悩な一人の父親が巧みに描かれてゐます。父
親は或る工場の職工で、無學でもあり、子供の細かな面倒
を見る暇ありませんので、子供の躰けなさは頓著なしの
方ですが、然し子供に對する盲目的な愛情には私達の胸に
沁むものがあります。この父親がフトしたこゝから年甲斐
もなく自分の救つてやつた娘に戀心を懷き、而もその甲斐

なきこゝを知つては、もう子供のこゝも忘れ仕事も投げ棄
てゝ家を外に放蕩して歩きます。それがある晩のこゝ酔つ
て歸つて、何かのいさかひから、己れの子供に手ひきく頬
を幾つもく打たれるのですが、何の抵抗をすることもな
く、たゞ子供の打擲に任せてゐる姿は、それからその子供
がワツミ泣き乍ら父親の懷にこび込んで來るのを堅く抱き
締めて父子が相擁して泣く場面は、もう理窟でも何でもあ
りません。たゞもう親子のなつかしさ、親子の尊さを見せ
られて、覺えず私達も泣かされたものであります。

以上に於いて、私はほんの二三の「父ミ子」を扱つた映畫
について述べて見ました。然し私のこゝに述べようとした
ものは決して映畫そのものではありませんでした。映畫を
映畫として述べるに當つては、自づゝ又別の途がある筈で
す。たゞ、私がこゝに述べて見たいと思つたのは、父ミ子
の深い繋り以外にはありません。ゲーテは父親となつて
から、凡そみぎり兒をかき抱ける母親の姿ほゞ世に麗しき
ものは又さなき云つて居りますが、同じこのゲーテの口

から、「凡そ神々の創り給ひしものゝ中で父親の心臓ほざ傷つき易いものはない」といふ意味のフランスの諺を、その晩年涙を浮べ乍らリーマルといふ人に語つた云はれてゐます。

世に、母親の子を愛する心は、姿は、最早今日では公理以上の公理です。あまりにも之は大きな自然でありますから、却つて私は之を説く必要を認めません。然し、凡そ神の創り給ひしものゝ中で父親の心臓ほざ傷つき易いものはない、といふこの言葉は世の人々によつてもつま味はれて好い言葉ではないかと思ひます。現代の私達のあまりにもめまぐるしい生活の中に於いて、最も靜謐を極め、最も深い繋りを有つものが、親子との間であるとするならば、この子にまことに愛されない父親は、何の目的を以て、何の樂しみを以て現代の生活苦に處するのぞう。子は母の愛のみにて育つものではなく、父は子の愛なくしては到底圓滿に生き得ないだらう、といふことを述べてこの事を擱きます。

(一〇、三)

こどものお話

和子のお兄ちゃん、病院から今日かへつてくるの、

和子、ゆふべゆめみたの、

いつも、もと子ちゃんと遊ぶ原っぱで遊んでたらお

兄ちゃん、自轉車にのつて

「カッコー、」つて和子のそばをスーッと

走つて行つたの、

和子嬉しかつた、だけどめがさめてお母さまにきい

たら、お兄ちゃん、まだかへつてゐなかつたわ、

童話

何故さう物語 (一)

——ラットヤッド・キブリング——

一、何故犀に皮が出来たかといふお話

昔、昔、大昔、遠い遠い南の海のある無人島に一人の魔法使ひが住んで居りました。魔法使ひは頭に真赤な帽子を被つて居りましたが、不思議なことに、この帽子はお太陽様の光を受けるミ、まるで寶石で出来てゐるかのやうにキラキラ輝いて見えました。そして帽子の外には、持ち物といつてはナイフを一本ミ奇妙な恰好をした大きな七輪を持つてゐるばかりでありました。ミころで、ある日のミ、魔法使ひは小麥粉ミ水ミ乾葡萄ミ李ミお砂糖ミで御馳走のお菓子を焼きはじめました。直径が二尺もあつて、それに厚さが三尺もあらうミいふ、それはそれは途方もない大きなお菓子でありましたが、それがまた、ミても素晴らしく美

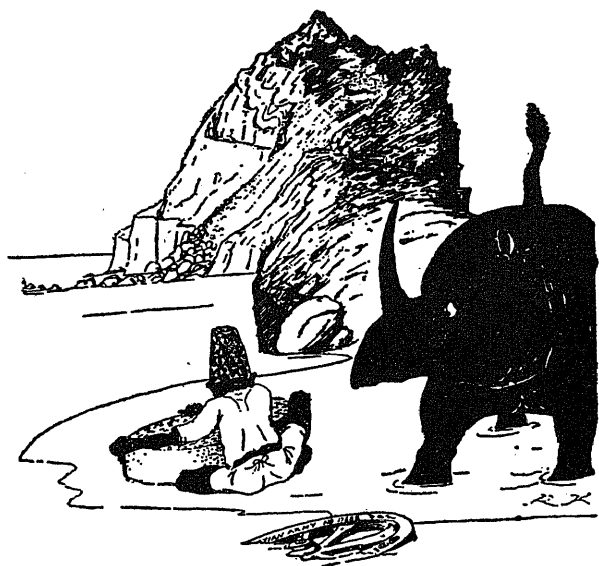
中野好夫 譯

味しいのです。(サア、そこが魔法使ひなのです)、魔法使ひは小麥粉ミ水ミ乾葡萄ミ李ミお砂糖ミを練り交せてこさへたお菓子を、やつミこさミ七輪にかけました。お菓子はだんだん焼けて來ます。やがて、こんがり狐色になつて、それはそれは美味しさうな匂ひが、ブーンミして來ました。いよいよ魔法使ひがでは御馳走にならうミいふその時、島の奥から大きな一匹の犀がノソリノソリミ海岸の方へやつて來ました。皆さんは犀を知つてゐますネ。あの大きなまるで箱舟のやうな恰好をして、鍬だらけの厚ぼつたいダブダブの皮の外套を著た犀を知つてゐますネ、豚のやうな可愛い小さい目が二つ、それにお鼻の上から大きな角が一本、ニョーツミ突き出てゐますネ。さうです、さうで

す、あの犀です、お行儀の悪い奴でせう。こころが、その頃は、——さう、さう、このお話はまだこの世界が出来て間もない時分のお話ですよ。よろしいか。——その頃は犀の皮はピッタリ身體にくっついてゐて、何處を見ても今のやうにあんな皺などはちつともありませんでした。尤ももつともつみずーつみ大きくはありました。けれども今も昔も同なじこみで、ほんこにお行儀が悪かつたのです。今もお行儀はよくありませんでせう。これから——駄目でせうネ、きつこ。こころで犀はわめくやうな大聲で、『やあ』魔法使ひの後から聲をかけました。不意を食つた魔法使ひはお菓子も何もうつちやらかして、狼狽て、傍の椰子の樹の天邊へ上りました。頭には例の眞赤な帽子を一つ被つたばかりです。帽子をいへば、あのお陽様の光があたるミ、キラキラ光る不思議な帽子でしたネ。そこで犀の奴はノソリノソリミやつて来るミ、いきなりお鼻で七輪をゴロンミひっくり返してしまひました。可哀相にお菓子はコロコロミ砂の上に轉がりましたが、犀はそのお菓子をお鼻の上の大きな角でヒョイミ突き刺して、そのまゝ尻尾を振り

ながら、またノソリノソリミ島の奥へ歸つて行つてしまひました。やがて魔法使ひは椰子の樹から下りて来るミ、七輪を起して、それからお陽様の方を向いて、魔法の呪文を大聲に三度唱へました。——モレカモデレタ、モレカモデレタ、ツヤルトルオシワク——皆さん、お解りになりますか。解りませんか？、ぢや私が日本語で言つて上げませうネ。その意味は、『魔法使ひの焼いてるお菓子を盗んで行つた不届者は天罰立ちこころに到るべし』。ミいふのだそうです。

サア、大變でした。それから五週間たつた後のこみ、南海の海一帯に焦げつくやうな暑さがやつて参りました。みんな誰れもかれも着物も何にもすつかり脱いでしまひました。無人島の魔法使ひも到頭眞赤な帽子を脱ぎました。それからあの犀も、到頭我慢がしきれなくなつて、皮の外套を脱いでしまつて、それをばヒョイミ肩に引掛けて、水浴びに海岸へ下りて参りました。さうさう、忘れてゐましたが、その頃の犀の皮はスツボリ頭から被るミ、お腹のこころで三つボタンでバチンミこめられるやうになつてゐて、丁度あの防水服みたいだつたのです。犀は魔法使ひの前ミ相變



らずノソリノソリミ歩いて行きました。無論あの魔法使ひのお菓子は三つの昔にペロリミ食べてしまつてゐたのですが、一向何食はぬ顔で、ケロリミして魔法使ひの鼻つ先を通つて行きました。そして大事の皮の外套を水際に残し

たまり、ヂャブヂャブミ入つて行つて、お鼻の先だけ水の上に出してブクブク大きな泡を吹いて居りました。何しろお行儀さいふこは、今も昔も、これから先きも、一向に知らないのですから仕方ありません。

まもなく魔法使ひは海岸へやつて参りました。そして屏の皮の外套を見つけるミ、眞黒な顔にニヤリミ一つ笑ひました。ミそのニヤリはさも嬉しさうに眞黒い顔中をクルクルミ二度驅けまはりました。それから皮の外套のまはりを三度雀躍りしながらグルグル廻つて、蒼蠅のやうに兩手を擦つて躍り上りました。それから大急ぎで自分の小屋へミつて返して、眞赤な帽子にお菓子の粉屑を一杯に詰めてみました。皆さん、よく記憶してゐて下さい、よろしいか、この魔法使ひはお菓子の外には何にも食べない上に、自分のお家を一度だつてお掃除したこゝがないのださうです。そこで例の皮の外套をスーツミ取り上げるミ、帽子の中の粉屑をすつかり打ちまけて、あの古い、乾いた、ボロボロの粉屑や焼け焦げの乾葡萄が一面にくつつくやうに、カ一杯ゴシゴシこすりつけました。さて、そしらぬ顔で外套を

元の場所へ置くミ、魔法使ひは傍の椰子の樹の天邊へ上つて、早く犀が水の中から出て来て、皮を著るのを待つて居りました。

何も知らない犀は、やがて相變らずノソリノソリミ海から上つて参りました。そしていつものやうにスッポリ外套を被るミそのまゝバチンミ三つのボタンをはめてしまひました。

ミこころで、皆さん、あなた方は寢床の中に菓子屑が落ちて居る時のミを知つてゐますか、丁度そつくりあれなんです。暫くするミ犀は身體中がなんミなくむづかゆくなつて参りました。だから犀はなんミかして搔かうミ思ふのですが、それが困つたミには、搔けば搔くほぎ、一層ひきくかゆくなるのです。サア、困つた!!そこで今度は砂の上にゴロリミ横になつて、無暗矢鱈にゴロゴロ轉がつて見ましたが、これもいけない。轉がれば轉がるほぎ、かゆくなるばかりです。今度は仕方がないから、椰子の樹のミこころへ行つて、狂氣のやうに身體中を幹にこすりつけてみました。やつぱり駄目でした。その代り餘りひきくこすつた

ものですから、肩のミこころに大きな贅が出来てしまつたのです。それからいつもボタンをはめてゐたお腹のミこころにもまた一つ大きな贅が出来てしまひました。(ボタンは?ミいふのですか。そうです、ボタンはこの時にすつかり摩り落ちてしまつたのです)。その上にまだたまらなくてこすりつけたものですから、兩脚にもまた贅をこしらへてしまひました。犀はすつかり疳癩を起しました。ミいつてそれで肝腎の粉屑がぎうなるミいふのではありません。粉屑に相變らず皮の下に残つてゐるのです。そしていつまでもいつまでもむづむづしてゐるのです。犀は家へ歸つて参りました。ひきくブンブン腹を立てゝ居ります。そしてまだ眞赤になつて狂氣のやうに身體中を搔きむしつて居ります。皆さん、解りましたネ、その日からミいふもの、犀ミいふ獸はあなた方が御存知のやうに身體中が大へん皺だらけで、それに大へん氣むづかし屋なのです。それもみんな何故かミ言へば、あの厚ぼつたいダブダブの皮の外套の下に今でもなほお菓子の粉屑がそのまゝ残つてゐるからなのですトサ。

(おはり)

生徒募集

一本 科 七十名

一研究 科 若干名

右 募 集 ス

出願期限 二月一日ヨリ三月廿五日迄

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川区大井原町五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川 五郎

顧問兼講師 倉橋 惣三

授業時間

自 午後一時

至 午後五時

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長

主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主事

吉岡 郷甫

倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルハモノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一同總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一名 會務ヲ總理ス
主幹 一名 會長ヲ補助シテ會務ヲ掌理ス
幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應ジテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁二等面一頁
三ヶ月分	金貳圓拾錢	金參拾圓金貳拾圓
半年分	金貳圓拾錢	一等面一頁一頁以下
全年分	金四圓拾錢	金貳拾五圓圓斷
拾貳冊送	金貳圓拾錢	神田區駿河臺ノ三品田
拾貳冊送	金貳圓拾錢	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和十年三月十三日印刷納本
昭和十年三月十五日發行

幼兒の教育 第三十五卷 第三號

不許複製 禁轉載

編輯者 倉橋 惣三
發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所

日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番

注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税増)で願ひます。
一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

著名大四の園稚幼

增訂六十版

奈良女高師教授兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著

定價
送料
十三
八錢圓

幼稚園の理論及實際

奈良女高師教授兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著

定價二圓八十錢
送料十八錢

〔版 五〕

幼稚園の經營

奈良女高師教授兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著

定價二圓八十錢
送料十八錢

〔版 八〕

用保
姆
教
育
學

奈良女高師教授兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著

定價
送料
十二
四
錢

〔版 六〕

幼托
稚兒
園所
育兒
法

▲唯一の邦文参考書 本書は本邦保育界の耆宿森川先生の手力にて理論實際精通した幼稚園の保育原論内容諸問題を網羅した無二良書は古今の理論内外の實際等師教科書各府縣指定参考書

▲保姆檢定の参考書 女高

▲實際的保育方法を詳解す 保育上の實際問題は訓練要目保育育要目を初め詳述す

▲現代幼稚園經營の模範的良書 日本の實際的保育方法を究明精述し更に歐米の新研究を配し完璧を期す

▲保姆一人に一冊必須必讀

▲保姆檢定最良參考書 幼稚園令施行規則に據る保姆に必要なる教育及児童心理教授法、管理法を全部網羅し保姆受驗者の參考書。保姆養成所及女師必須良書。

▲實地及幼稚園の理論と實際との教學法 本書保姆及用教育學一讀めば完璧。

▲幼稚園施行規則によると 保姆には育児法が必須。本書は保姆に必要な幼稚園児所に於ける適切な教育法を詳述せる最良書。

▲保姆檢定の參考書 試験科目中の保姆受驗者の一無二の良參考書。

兌發

東洋圖書株式會社

東大 京阪

東大 京阪 市南 神區 田內 區安 神堂 保寺 何町 一一 丁丁 目目 六二 七八 番番 地地 振振 替替 東大 京阪 一三 〇九 三五 七六 番番

幼稚園の運動具と保育用品

卒業の御園児より御園への記念品は

何れも弊社の各種運動具及び
保育用品を御利用遊ばします

と申しますのは

弊社は約三十年間の研究、製造、販賣、
施設の経験を有ち、堅牢にして結句割
安との御定評を得。且つ

「幼稚園用品としてないもの無し」の種
類の豊富と生産の多量に、「御選擇は御
意のまゝ」の極めてお氣安く御用命を
仰せきけられて居りますから。

目課業營

幼稚園 保育用品
幼稚園 運動具
幼稚園 キンダーブック
ピアノ・オルガン 蓄音器等の樂器

兒童關係圖書雜誌
一般玩具兒童用品
椅子・家具其他木工具一式
河合ピアノ代理店



館ルベールフ 社會式株

番七二八三(33)段九話電・路小川今・田神・京東 店 本
番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所張出

昭和四年五月十五日第四種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和十年三月十三日印刷納本
昭和十年三月十五日發行

定價 三十五錢